

茨城県
教育
研究会

会 報

第170号

<学習指導要領の趣旨を踏まえ、創意を活かした教育課程の評価及び改善>

特集 「本年度の事業の反省・県外派遣研修報告」

平成28年2月29日
 茨城県教育研究会
 代表者 坂場 克身
 事務局 水戸市大場町933-1
 教育プラザいばらき内
 TEL 029-269-1300
 FAX 029-269-1304



「市内中学校4校の中学3年生274名による第九」(平成26年度潮来市音楽発表会)

学校間を超えた第九への挑戦



潮来市立潮来第一中学校 校長

錦 織 俊 雄

現行の中学校指導要領が施行されてから四年目となり、それぞれの学校で創意を活かした教育課程を編成し、特色ある教育活動が展開されている。そして、それらは生徒や保護者の希望、地域の伝統や文化の実態、そして教師の思いや願いなど、様々な背景を反映したものであることは言うまでもない。

本校を含め、市内の中学校四校では合唱を中心とした音楽教育が熱心に取り組まれている。毎年行われる市内小中学校児童生徒音楽発表会での各校代表の合唱の質は、年々向上してきている。このことを踏まえ、二十六年度の音楽

会では市内中学三年生全員による「ベートーベン作曲の交響曲第九番「合唱付き」」の演奏を計画した。そしてそれはオーケストラとプロのソリストによる本物の演奏で、原語(ドイツ語)による合唱である。各校音楽主任との会議を重ね、実施計画を立案し、校長会への提案承認を得て活動をスタートした。各校の時間を調整し、地域の専門家が順番に回り、発声から音

取り、そしてドイツ語発音の指導に半年間を要した。

ソリストはプロの若手音楽家を知人の紹介でお願いし、オーケストラは私が音楽監督と指揮をしているアマチュアにお願いした。生徒全員(二百七十四名)を乗せるためのステージの設営と撤去、駐車場の整理と案内などを、潮来市PTA連絡協議会に依頼し、当日は四十名近い方の協力を頂いた。

ソリストや合唱指導者、オーケストラの経費は教育委員会と市長にお願いし、補助を頂くことができた。

そして迎えた演奏会当日は、生徒の晴れやかな表情の中から、不完全ではあったが力強い「喜びの歌」が、オーケストラの演奏とともに会場全体に響き渡った。会場の小学生や保護者、地域の方々には大きな感動を与えることができた。

市を上げての演奏会となったこの体験は、生徒たちにとって掛け替えのない経験となり、将来、自分たちは本物の「第九」を演奏したことがあるんだと自慢して欲しい。



第 67 回 茨城県教育振興大会並びに研修会 平成28年2月9日(水) 茨城県立県民文化センター

- 教育論文の発表
- 永年勤続教育功労者の紹介
- 教育論文優秀者の表彰
- 宣言決議
- 講演会

大会宣言

茨城県学校長会と茨城県教育研究会は、永年にわたり互いに連携しながら、本県教育の充実・発展のため、研究と実践を重ね、その成果を上げてきた。教育を取り巻く環境が大きく変化している今日、東日本大震災等の教訓を生かし、かけがえない自他の命を大切にすること、生きる力である「確かな学力」「豊かな人間性」「健康・体力」をより一層育むことが、我々には求められている。

このときに当たり、我々は、地域社会の願いと自らの使命を自覚し、創意と活力に満ちた学校づくりを推進して、教育の目的を実現しなければならぬ。本県学校長会と教育研究会は、これまでの取組の成果と課

題を明確にし、一人一人が輝き、自立する子供の育成に英知と情熱を注ぎ、県民の信頼と期待に応えていく決意である。ここに、第67回茨城県教育振興大会開催に当たり、次の事項に全力を尽くすことを宣言する。

記

- 一 子供の安全・安心を確保する。
- 一 学ぶ意欲を育む。
- 一 思いやりと感謝の心を育み、健やかな体を育てる。
- 一 創意ある教育活動を展開する。
- 一 信頼される教職員を目指す。

平成二十八年二月九日

茨城県学校長会
茨城県教育研究会

新しい時代に必要となる資質・能力の育成に向けて

茨城県学校長会
茨城県教育研究会
会長 坂場 克身

第六十七回茨城県教育振興大会にあたり、ご多用の中を茨城県知事橋本昌様はじめ多くのご来賓の皆様のご臨席を賜り、盛大に開催できましたことに心より感謝申し上げます。

また、各会員の皆様方には、日ごろから本県教育の振興に多大なるご

尽力をいただいておりますことに心から御礼を申し上げます。

昨年九月の「関東・東北豪雨」では、常総市を中心に甚大な被害がありました。現在でも自宅に戻れない児童生徒や教職員がいるという状況が続いております。被災された多くの方々に、改めてお見舞い申し上げます。また学校の復旧等にご尽力された多くの関係者の皆様に敬意を表しますとともに、深く感謝申し上げます。さらには被災した児童生徒の心のケアのために、スクールカウンセラー等を派遣するなど、様々な細やかな行政の対応も大変有難く思っております。

さて、本大会は、昭和二十四年から県学校長会が中心となり、本県教育の充実・発展のための研究と実践の成果を発信する場として開催され、平成十八年からは県教育研究会との共催により、更なる会員相互の情報共有と行動連携を通して、教職員の資質・能力向上や教養を高めることを目的に開催されてきております。

この度、永年にわたり児童生徒の教育に携わり、本県教育の充実・発展に寄与されてこられましたご功績により感謝状を受けられます百六十五人の会員の皆様にご心から感謝とお祝いを申し上げます。

昨年は、教育改革の動きが急で、教育再生会議の第六次から第八次までの提言や、「義務教育学校」の設置の制度化、次期学習指導要領改定に向けての論点整理の発表、道徳の教科化、英語教育の一層の充実、チーム学校やコミュニティスクールの推進等々、時代の転換期を強く感じさせる一年でした。

次期学習指導要領については、新しい時代に必要となる資質・能力の育成に向けた教育課程の構造化として、「何ができるようになるか」そのために「何を学ぶか」、「どのように学ぶか」が示されています。中でも、育成すべき資質・能力を育むためには、課題の発見・解決に向けた主体的・協働的な学び（アクティブ・ラーニング）の重要性が強調され、各学校におけるカリキュラム・マネジメントを確立することが強く求められています。つまり、子どもたちに新しい時代に必要となる資質・能力を身に付けさせるためには、それを指導す

る教職員にこそ、より一層の資質・能力が求められるということです。こうした中、県学校長会では、「学校からの教育改革」をキーワードにこれまで三年にわたって取り組んできた「中期教育ビジョン」の最終年度を迎え、その評価・検証を行うとともに、平成二十八年度から平成三十年度までの新たな「第二期中期教育ビジョン」を策定するという作業の最終段階に入っております。

県教育研究会においては、一万六千二百人を超える会員を有し、教育に関する調査研究、教育課程の実践的研究、研究紀要等の発刊などを精力的に行ってまいりました。併せて、これからの教育の方向性を見定めながら、「組織の改編」、「活動の在り方」の観点から、組織の活性化を図っているところです。本年度第五十回となる教育論文事業には、百七十五点の応募をいただき、会員の皆様の熱心な取組に感謝しております。また、本日栄えある表彰を受ける皆様には、改めてお祝いを申し上げます。

県学校長会、県教育研究会とも、子どもたちに「生きる力」を育むとともに、会員の資質・能力の向上を図り、職場環境を改善充実させるためにある組織です。教職員一人一人が強い使命感と高い倫理観をもち、互いに切磋琢磨しながら高め合っている組織として進化・発展できるように、主体的・協働的に活動に参加してまいります。

最後になりましたが、本日の教育実践ご発表の先生方に感謝を申し上げますとともに、ご臨席を賜りましたご来賓の皆様へ学校教育に対する変わらぬご理解・ご協力をお願い申し上げます。

平成28年度 茨城県教育研究会活動方針 (案) 平成二十八年二月二十六日現在

茨城県教育研究会は、各都市支部・町村研究会、各研究部の研究活動や専門委員会の活動を通じ、教職員の資質・能力の向上を図り、子供たちに「生きる力」を育むことを目指して、鋭意努力を重ね、着実にその成果を上げてきた。

教育を取り巻く環境が大きく変化している今日、東日本大震災等の教訓を生かし、かけがえのない自他の生命を大切にすべく、心と生きる力である「確かな学力」「豊かな人間性」「健康・体力」をより一層育むことが強く求められている。

このときに当たり、私たちが会員は、全国に誇れる本会の輝かしい歴史と伝統を継承しつつ、子供たち一人一人の夢や希望を育む教育を展開し、家庭や地域社会の信頼と期待に応えなければならぬ。

そのため、全会員が主体的・協働的な研究活動を一層計画的に推進し、研究目標の具現化に努めるものとする。

I 研究目標

子供たちに「生きる力」をより一層育むために、新学習指導要領が目指す姿を踏まえ、各学校における「社会に開かれた教育課程」の実現に向けた研究を推進する。併せて、課題の発見・解決に向けた主体的・協働的な学び(いわゆる「アクティブラーニング」)の視点からの授業改善に努める。

一 学ぶ意欲を育む。

学習意欲を高め、基礎的・基本的な知識及び技能を習得させ、それらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等、確かな学力を育むための研究に努める。

二 思いやりと感謝の心を育み、健やかな体を育てる。

道徳教育及び体育・健康に関する指導等を充実させ、豊かな心と健やかな体を育むための研究に努める。

三 創意ある教育活動を展開する。

学校・家庭・地域社会の連携を一層深め、信頼と活力に満ちた特色ある学校づくりの研究に努める。

II 研究の進め方

一 基本的な考え方

研究目標の達成に向け業務の効率化を進めながら、活動の改善充実を図り組織の活性化を目指す。

二 本部主催事業、研究部及び専門委員会の活動について

(一) 本部主催事業について

次の諸事業について、事業推進委員(企画員、支部長代表五人、研究部長代表二人)を中心に企画・実施する。

総会、評議員会・企画会、教育振興大会、県外教育事情調査派遣事業、新会員二年次研修会、教育座談会

(二) 研究部の活動について

① 重点指定について

重点指定を隔年とする。

業務の効率化を図るため、重点指定年度以外は事業等を一切実施しない。ただし、年度始・年度末の郡市部長会は実施できる。

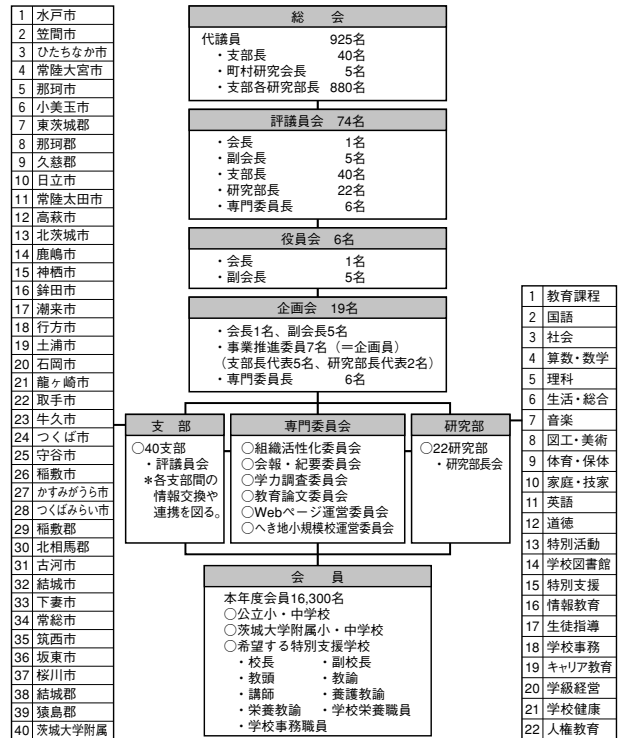
ウ 重点指定によらずに、毎年実施しなければならぬ事業については、特別事業として取り扱う。特別事業とは、次の事業等とする。

イ プロック別各種研修会(社会、理科、図工・美術、特別支援等)

ロ 郷土教育研修会(社会)、音楽コンクール(音楽)、インタラクティブフォーラム(英語)、読書感想文コンクール(学校図書館)

エ 関プロ・全国大会開催の前々年度から開催年度までの三か年は、重点指定研究部とする。ただし、研究部長の申し出によって、その限りではない。

(図) 平成28年度茨城県教育研究会組織図(案)



② 重点指定年度 三十三万円

重点指定年度以外 三万円

③ 研究調査・研究成果の刊行について

重点指定年度研究部のみ調査及び刊行する。

イ Webページ掲載を基本として、刊行物の語彙検索ができるようなシステムにし、活用できる刊行物の在り方を検討する。

(三) 専門委員会の活動について

① 組織活性化委員会

(役員六人、支部長代表五人、研究部長代表五人、教育課程研究部長が委員長となる)

② 次年度の活動方針作成を主としながら、次の二つの取組を実施し、本会の組織活性化に必要となる事項について検討する。また、研究部長代表五人で小委員会を構成し、活動の企画立案を行う。

Web機能を活用したアンケートの実施

アンケートを通して会員の意見を集約し、活動内容等の改善充実のための検討資料とする。

④ 課題検討委員会の設置

県学校長会と連携し、県学校長会第二期中期教育ビジョンの少人数指導教育の充実について協議することにも、本会活動の活性化に向けて必要な教育課題の検討を行う。

委員は、各研究部の研究推進委員等から選出する。

⑤ 会報・紀要委員会

(二十一) 研究部から各一人

本会の活動内容・事業等の状況について会員の理解を深めるため、研究会報(年三回)と研究紀要(年一回)を発刊する。

⑥ 学力調査委員会

(問題作成委員五教科から各一人)

児童生徒の学力の実態を指導年度内に把握し、指導方法等の改善や補充指導を通して学力の定着を図るため「学力診断のためのテスト」を作成・実施する。

(実施予定日)

平成二十九年一月十一日(水)

平成二十九年一月十二日(木)

平成二十九年一月十三日(金)

平成二十九年一月十四日(土)

平成二十九年一月十五日(日)

平成二十九年一月十六日(月)

平成二十九年一月十七日(火)

平成二十九年一月十八日(水)

平成二十九年一月十九日(木)

平成二十九年一月二十日(金)

平成二十九年一月二十一日(土)

平成二十九年一月二十二日(日)

平成二十九年一月二十三日(月)

平成二十九年一月二十四日(火)

平成二十九年一月二十五日(水)

平成二十九年一月二十六日(木)

平成二十九年一月二十七日(金)

平成二十九年一月二十八日(土)

平成二十九年一月二十九日(日)

平成二十九年一月三十日(月)

平成二十九年一月三十一日(火)

(表) 各研究部の重点指定年度(平成28年3月2日現在)

1 教育課程	重点指定年度(○)											その他(関プロ等開催年)
	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	
2 国語	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	H32関地区中
3 社会	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	H27関地区中、H35関地区中、H39全小社
4 算数・数学	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	H26関プロ小中、H32日数教
5 理科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	H26関地区中、H30全小理
6 生活・総合	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	H31関プロ小
7 音楽	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	H26、H34関プロ小中
8 図工・美術	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
9 体育・保健	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	*H29中体連関プロ
10 家庭・技家	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	H31関地区中、H32関地区小
11 英語	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	H33関地区小中
12 道徳	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	H29関プロ小、H31関地区中
13 特別活動	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
14 学校図書館	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	H27関プロ小中
15 特別支援	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
16 情報教育	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
17 生徒指導	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
18 学校事務	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
19 キャリア教育	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	H28関プロ小中
20 学級経営	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
21 学校健康	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
22 人権教育	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
計	11	13	12	14	14	12	12	12	11	11		*H30関修委、茨城国体

* 関プロ・全国大会の開催が新たに決定した時点で追加する。同一年度3研究部まで。
* この表は、研究部長会が把握し管理する。

(各プロック代表一人、県教育庁義務教育課一人)

本県教職員の真摯な教育研究を助長し、これを顕彰して、本県教育の振興を図るため、論文の募集と審査を行い、表彰式及び発表会を開催する。

⑤ Webページ運営委員会

(二十二) 研究部から各一人

Webページでの積極的な情報発信により、教科・領域研究部間の連携及び教職員の連携を深めるための管理・運営を行う。

⑥ へき地小規模校運営委員会

(児童生徒数が小学校百二十人以下、中学校九十人以下の参加を希望する学校の代表十七人)

へき地小規模校のよさを生かした特色ある教育活動の充実・発展を図る。

(四) 事業及び活動の開催日時等の決定について

① 本会が主催する会議等(プロック対象の事業も含む)の同日複数開催を回避するために、開催期日決定においては、教育プラザでの確認のうえ、開催文書を教育プラザまで送信して決定する。(教育プラザ以外の会場での開催についても同様とする)

② 事務局は「会議開催予定一覧(学校長会の会議開催も含む)」をWebページ上にアップし、管理する。

③ 各支部においても、会議等の開催期日決定の際は教育プラザの「会議開催予定一覧」を参照する。

平成 27 年度第 50 回教育論文表彰並びに発表

茨城県教育研究会主催、茨城県教育委員会後援による第 50 回教育論文の表彰式が、平成 27 年 12 月 9 日(火)に開催された茨城県教育振興大会の中で、盛大に執り行われました。

第一部で、優秀賞を代表して、高萩市立高萩中学校と常陸太田市立久米小学校が論文発表を行いました。

第二部では、岩田博教育論文委員長による審査経過報告の後、表彰が行われました。優秀賞(五名)、優良賞(二十四名)、佳作(十四名)の受賞者は、以下のとおりです。



【優良賞】(茨城県教育研究会賞)

1 学校健康教育
養護教諭の特質を生かし健康の保持増進に関する基本的生活習慣を定着させるための学校健康教育の在り方「早寝・早起き・朝ごはん・テレビを消して夕ごはん」運動を通して、笠間市立久米小学校 養護教諭 黒澤 香織
2 外国語教育
積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる外国語活動の指導の在り方「主体的・協働的に英語を聞いたり話したりする活動の工夫を通して」
笠間市立久米小学校 教諭 中山 光一

3 学習指導
自ら考え自ら判断し心豊かにたくましく生きる生徒を育てる学習指導の在り方「二十一世紀型能力を視野に入れた下表中スタイルの授業づくりを通して」
下表中市立下妻中学校 校長 中山 均 外全職員

4 特別支援教育
ICT活用を図った特別支援学級における学習活動の試み「障害特性を考慮し、小集団の特性を生かした支援をめざして」
つくば市立竹園学園竹園西小学校 教諭 奥沢 忍

5 体育保健体育
ボールを持たないときの技能の向上を図り、運動有能感を高める保健体育学習指導の在り方「第一、二学年球技(サッカー)における場やルールの工夫、グループ活動の充実、学習カードの工夫を通して」
常総市立水海道西中学校 教諭 石川 勇

6 道徳
児童が本音で語り合い、考えを深める道徳教育の在り方「葛藤資料を用いた問題解決的な学習を通して」
茨城県市立菅原小学校 教諭 倉持 千佳子

7 国語
論理的に読む力を育てる国語学習指導の在り方「小学校第四学年の文学的な文章を読む学習における単元を貫く言語活動の工夫を通して」
常陸太田市立瑞竜中学校 教諭 渡邊 護

8 国語
文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをまとめる力を育てる国語学習指導の在り方「評価語彙を用いて解説書を作る活動を通して」
筑西市立関城西小学校 教諭 塚田 尚美

9 音楽
協力して音楽を作り上げる喜びを味わわせる活動の工夫「音楽作りにおける『言語活動の充実』を図る実践を通して」
常陸太田市立立花小学校 校長 乾 孝之 外全職員

10 学校健康教育
学校における日常の救急処置および保健指導の展開「自分のからだを大切に学び実践できる生徒の育成を目指して」
ひたちなか市立勝田第一中学校 養護教諭 笹川 まゆみ

11 算数・数学
根拠を明らかにし筋道を立てて表現する能力を育てる数学学習指導の在り方「図形」の領域における「まとめシート」を用いながら説明し伝え合う活動を通して」
坂東市立猿島中学校 教諭 清水 博俊

12 特別活動
よりよい人間関係を育てる学級経営の在り方「小学校第一学年における集団活動および体験的な活動の場の工夫を通して」
北茨城市立平沼小学校 教諭 芳賀 千明

13 国語
目的や必要に応じて書く力、読む力を育てる国語学習指導の在り方「単元を貫く言語活動を位置付けた授業づくりを通して」
北茨城市立精華小学校 校長 乾 孝之 外全職員

14 学校図書教育
生徒・教員と本をつなぐ学校図書館の在り方「学校司書との連携を通して」
土浦市立新治中学校 教諭 成田 栄美

15 国語
「書く力」を高めるための指導法の研究「根拠を明確にして書く活動を通して」
北茨城市立明徳小学校 教諭 奥村 仁史

16 算数・数学
学ぶ意欲を高め、式の意味を理解させる算数指導「第一学年 加法及び減法における問題づくりの工夫を通して」
常総市立西小学校 教諭 守能 智美

17 国際理解教育
自己肯定感をもち、進んで学ぶ外国籍児童を育てる学習指導の在り方「特別の教育課程」による学習指導と「居場所づくり」を通して」
常総市立水海道小学校 教諭 小口 栄子

18 算数・数学
論理的な考え方を構築していく指導の在り方「第二学年『買い物ゲーム』を楽しくしよう」における単元構成の工夫と思考ツールの活用を通して」
高萩市立高萩小学校 教諭 益子 武宏

1 外語活動 外国語相互評価の充実を目指した言語活動の在り方について「英語インタラクティブフォーラム形式でのディスカッション指導におけるジャッジトレーニングの指導を通して」
高萩市立高萩中学校 教諭 齋藤 崇

2 図画工作 美術発想や構想の能力を高めるための図画工作科学習指導の在り方「言語活動を適切に位置づけた学習過程の工夫と表現と鑑賞を関連づけた指導を通して」
常陸太田市立久米小学校 教諭 野田 こそ恵

3 生徒指導 養護教諭の特性と保健室の機能を生かした不登校児童への支援の在り方「児童の安心感と自己肯定感を高めるための関わりを通して」
高萩市立東小学校 養護教諭 滝 恵

4 社会 社会的現象を公正に判断する力を育む社会科学習指導の在り方「中学校第三学年公民的分野『司法権の独立と裁判』における社会的現象を様々な立場や側面から考察し、根拠を明確にして意思決定をする学習活動を通して」
古河市立緑和中学校 教諭 岡安 利明

5 校内研修 児童の思考力・表現力の向上を目指す校内研修の推進「算数科におけるチーム体制を生かしたアクティブ・ラーニング型研修を通して」
水戸市立三の丸小学校 校長 竹内 修 外全職員

19 理科
科学的な思考力、判断力、表現力を育む理科指導の在り方「主体的・協働的に学ぶ学習を目指した授業実践」
かすみがうら市立霞ヶ浦中学校 教諭 本田 徹

20 算数・数学
数学的な思考力・表現力を高める学習指導の在り方「表す・説明する算数的活動を中心とした言語活動の充実を通して」
つくば市立手代木光輝学園松代小学校 教諭 原市 ゆかり 外全職員

21 家庭技術家庭
生活における自立の基礎、基本を培う家庭学習の在り方「『わかる』から『できる』を実感させる授業づくりの実践を通して」
常陸太田市立山田小学校 教諭 梶山 理絵

22 教育課程
小・プログラミングの解消を目指した教育課程の編成と実践「五歳児から小学校一年生への関わりをとおして」
鹿嶋市立高松小学校 教諭 神取 克英

23 算数・数学
思考力・判断力・表現力を育てる算数科学習指導の在り方「図と式を関連付ける活動と単元構成の工夫を通して」
筑西市立養蚕小学校 教諭 柳田 淑子

24 体育・保健体育
仲間と関わり合いながら思考力・判断力を育てる体育科学習指導の在り方「小学校第四学年『ネット型ゲーム』における、簡単な作戦を立ててゲームを楽しむための学習活動の工夫を通して」
北茨城市立中郷第一小学校 教諭 橋本 幸子

【佳作】

1 国語
城下町立柱中学校 教諭 根本 健一

2 理科
つくばみらい市立三島小学校 教諭 細田 直人

3 社会
鹿嶋市立鹿島中学校 教諭 神宮司 剛

4 生活・総合
古河市立諸川小学校 教諭 谷中 良江

5 国語
稲敷市立あづま南小学校 教諭 高橋 敦

6 国語
石岡市立小松小学校 教諭 萩原麻由子

7 理科
日立市立久慈中学校 教諭 大津 正一

8 特別支援教育
阿見町立君原小学校 教諭 廣瀬 栄一

9 学校経営
北茨城市立関本第一小学校 教諭 柴田 崇博

10 国語
古河市立古河第二小学校 教諭 谷田部幸愛

11 音楽
ひたちなか市立勝田第一中学校 教諭 塚本 清恵

12 算数・数学
坂東市立東中学校 教諭 助川 仁史

13 算数・数学
常陸太田市立水府小学校 教諭 興野 聖人

14 道徳
桜川市立桜川中学校 教諭 谷島電太郎

優秀賞受賞のよろこび



高萩市立高萩中学校

教諭 斎藤 崇

この度は、このような栄誉ある賞をいただき、心より感謝申し上げます。

本研究は、茨城県の素晴らしい取り組みである「英語インタラクティブフォーラム」の形式を利用した授業実践を通して、相互評価の質を高めることを目指した研究です。特に、生徒にジャッジトレーニングという審査員のためのトレーニングを施しました。評価者として育成することにより、他者の英語力の評価はもちろん、自己の英語力の評価を客観的に行えるようにすることが実践の柱となっています。それが生徒たちの自己分析や英語学習への意欲付けへと至ったことが、研究の大きな成果でした。

本研究の中で、様々な方と意見交換をし、多くの先生からご指導を頂戴しました。そうしたことが多くの面で私の教師としての資質

を向上させてくれたと、心から感謝しております。

研究に際して、ご指導くださった校長先生をはじめ、多くの先生方に深く感謝申し上げます。



常陸太田市立久米小学校

教諭 野田 こず恵

この度は、このような栄誉ある賞をいただき、心より感謝申し上げます。

今回の研究は、図画工作の基礎的能力の一つである発想や構想の能力の育成を目指したものです。この能力を高めるために言語活動を適切に位置付けた学習過程の工夫とその指導方法、表現と鑑賞を関連づけた指導方法の二点について検討し、研究を進めました。今回題材として取り上げた想像画の学習は、児童にとって抵抗のある分野でした。そこで、学び合いを取り入れた学習形態により言語活動や鑑賞活動を意図的に取り入れたところ、互いに関わり合いなが

らイメージを膨らませて製作する姿を見取ることができました。そして高め合う児童の姿の尊さを実感しました。

最後になりましたが、研究を進めるにあたり、ご指導ご助言をくださいました常陸太田市教育委員会の先生方、同僚の先生方に深く御礼を申し上げます。今後も日々子ども達のために研鑽に努めて参りたいと思います。

高萩市立東小学校

教諭 滝 恵

この度は、このような栄誉ある賞をいただき、心より感謝申し上げます。

今回の論文は、児童が安心感と自己肯定感を高めるための関わりを通して、養護教諭の特性と保健室の機能を生かした不登校児童への支援の在り方について研究し、積み重ねた実践をまとめたものです。これらの実践は、同僚の先生方が養護教諭と保健室の役割を理解し、子供たちの特性や抱える不安に、共に向き合い続けてくださったからこそできたものです。学校がチームとなって共通理解を図り様々な立場のメンバーがそれぞれ役割を果たし、支え合うことで、子供や保護者への対応が実を結び、良い方向に動いてきたことを、論文をまとめながらあらため

て感じました。

最後になりましたが、研究を進めるにあたりご指導をくださった校長先生をはじめ、「チーム東」の先生方に心より感謝を申し上げます。これからも日々研鑽を積んで参りたいと思います。

古河市立総和中学校

教諭 岡安 利明

この度は、優秀賞という栄誉ある賞をいただき、心より感謝申し上げます。ありがとうございます。

現代社会では習得した知識・技能を実生活に生かしていこうとする力がこれまで以上に求められていると考えます。そのため本研究では社会的表象を公正に判断する力を意思決定する活動を通して育もうと考えました。

そのためにまず、意思決定の判断基準となる司法の意義や役割等の知識を習得させました。次に、多面的・多角的な考察から意思決定する活動を取り入れた学習を行うこと、立場や根拠を踏まえて判断することの重要性を気付かせようとしてきました。最終的には模擬裁判を実施し、証拠や証言など具体的事実を根拠として意思決定することで、社会的表象を公正に判断する力を育成しようと考えました。

最後に、このような論文を書く機会をいただいたこと、そして、

ご指導くださった校長先生をはじめ、多くの先生方に深く感謝申し上げます。今後も日々努力して参りたいと思います。

水戸市立三の丸小学校

校長 竹内 修 外職員一同

この度は、優秀賞という栄誉ある賞をいただき、光栄に存じます。

本校では、教育課題の解決や授業の在り方の追究を図るための方策として「三の丸小グレイドアップ(GU)プラン」を策定し、重点項目の一つ「学力向上のための校内研修の充実」に向けて、チーム体制を柱としたアクティブ・ラーニング(A・L)型研修に取り組みました。

研修体制をメンター方式によるA・L型研修に転換したことで、教員のキャリアステージに即した授業力の向上を図ることができました。また、マネジメントサイクルにチーム毎のA・L型研修を導入することにより、各チームのメンターが相互の連携を図り、主体的・協働的な学びを求める研修が推進でき、児童の思考力・表現力の向上へとつながられたと考えます。今後も、「チーム三の丸小」として、全職員が一丸となって研鑽を積んで参りたいと思います。

結びに、本研究に当たり、ご指導いただきました多くの諸先生方に深く感謝申し上げます。

平成二十七年
県外教育事情調査報告

十月五日(月)・六日(火)

南陽市立赤湯中学校
南陽市立赤湯小学校
南陽市立中川小学校

〔山形県〕



赤湯中学校にて

県外教育事情調査派遣団

〔団 長〕

常陸太田・里美小・中 黒羽 富子

〔副団長〕

下妻・大形小 中山 優

〔団 員〕

下妻・上妻小 根本美保子

常陸大宮・御前山小 大津 剛

〔団 員〕

那珂・菅谷東小

小美玉・美野里中

神栖・神栖四中

牛久・岡田小

つくば・谷田部中

守谷・守谷中

稲敷・君賀小

加藤木晴香

狩谷 秀一

黒澤 拓己

猪狩 幸子

早水 靖雄

稲葉由美子

二木 亮一

小中一貫教育の在り方を考える
南陽市の教育事情調査

常陸太田市立里美小・中学校

団長 黒羽 富子

〔調査目的〕

本会の本年度研究の重点に基づき、他県の教育活動の実情調査を行い、本県の教育向上と本会の発展に寄与する。

〔訪問校選定の視点〕

小中一貫教育の取組

〔学校訪問〕

山形新幹線に乗って赤湯駅に到着したのは、十二時過ぎ。その日は赤湯中学校を訪問しました。

二日目は、赤湯中学校と共に一貫教育に取り組んでいる中川小学校と赤湯小学校を訪問しました。

午前中に二校を訪問するという過密スケジュールでしたが、宿泊先のバスを利用して移動しましたので、予定どおりに訪問できました。

〔県外教育事情調査を終えて〕

訪問を快くお引き受けいただいた赤湯中学校長 小下政彦先生、中川小学校長 大竹仁先生、赤湯小学校長 長濱洋美先生に深く感謝申し上げます。また、各校の教頭先生方には丁寧なご説明と学校案内、多くの資料のご準備等をしていただきましたことに心からお礼を申し上げます。

三校の校長先生方が九年間を見通した目指す生徒像を明確にして

小中一貫教育に取り組みながらも、各校の実態に応じて特色ある教育活動を推し進めていらっしゃることに、それらを南陽市や地域の方々がしっかりと支援していることが強く心に残りました。

県内の各支部、各研究部から選ばれた団員一人一人が課題意識を明確にもち、各校の取組に対して鋭い質問をしたり、熱心に参観したりする姿に、本調査が有意義であることを実感いたしました。

今回の事業実施にあたり、ご助言やご協力をいただいた県教育研究会役員の皆様、事務局の皆様、団員所属校の校長先生に深く感謝申し上げます。

小中一貫教育と地域総合型教育

下妻市立大形小学校

副団長 中山 優

小中一貫教育（実際には幼児小中一貫教育）と地域総合型教育の考えから十一年間を見通した連続性のある教育体制を整えていました。育ち、指導、学びの連続性を緻密な計画で実践し、その成果が赤湯中学校の生徒の学力や体力面、生活の様子に現れていました。

小中一貫教育については、PTA総会において三校とも同じパンフレットを配付し、その意義と必要性について説明し理解を求めました。目標を「自主・自立」

自ら考え、進んでやり遂げる子どもの育成」として重点項目を三つ、学力の向上、規範意識を高める基本的な生活習慣の定着、コミュニケーション力の育成として様々な施策が講じられていました。

さらに、学校間の連携だけではなく地域と一体となった教育も特徴的でした。地域総合型教育と銘打ち、自力解決の力の育成を目標に、幼保小中一貫教育：発達段階に応じた教育、社会参画活動：市民意識の高揚、国際化教育：理数教育：新たな時代を切り拓く力、地域ネットワーク事業：自主活動の活性化、PTA・家庭教育：生涯教育への礎と捉えて実践していました。

最後に感動的な話を紹介します。地元ケーブルテレビで紹介されたもので、中学生が小学生の登校を横断歩道で誘導し、止まってくれた運転手にお礼の言葉をかけていました。他の学校でもありそうな光景ですが、その経緯を聞いて驚きました。六年前に登校途中の小学生の列に車が飛び込み、小学生が即死してしまつたそうです。この事故を嘆き、当時の生徒会長が後輩である児童の登校の手助けをしたのが始まりだそうです。その後も生徒会を中心に毎日横断歩道で児童の通学の手助けをし、運転手に向かってお礼の挨拶と笑顔を届けているそうです。

南陽市立赤湯中学校

「幼保小中一貫教育の 実践」

南陽市立赤湯中学校は、平成二二年度に中川中学校と赤湯中学校が統合し、それを機に分離型の幼保小中一貫教育に取り組んでいる学校です。幼保小中一貫教育の目標として『「自主・自立」自ら考

え、進んでやり遂げる子どもの育成』を掲げています。「各学校の独自性、主体性を尊重しながら、幼保小中で連携し、子どものよりよい育ちにつながる教育活動を中心に推進する」「各学校の実態、将来の方向性を見極めながら随時、修正を加え実践する」この二点を方針として幼保小中一貫教育を実践しています。その具体的方策として赤湯中学校の取り組みとして次の三点が挙げられます。

【学力の向上 (系統性を意識した指導)】

算数・数学を重点教科と指定し、計画的に中学教諭が小学生に授業を行っています。系統性を意識し、単元によって実施することによって、学習意欲の喚起や発展学習につなげています。小学教諭が夏休みや放課後に中学生を対象に学習サポートを行っています。また、中学三年生が小学校に行っ

て宿題のサポートを行う活動も定期的に行っています。

【規範意識の醸成・ 基本的生活習慣の確立】

交通安全ありがとう運動を毎日実施しています。具体的には小学生の登校時に、交差点等に中学生が立ち安全指導とあいさつ運動を行う運動で、全ての中学生が当番制で実施しています。

小学校の先生が、定期的に中学生に道徳の授業を行っています。

【コミュニケーション能力の育成】

クリン作戦を中学生と小学五・六年生で実施しています。また、地域の運動会の前に全ての小学生で除草作業等を行っています。中学生が小学生をリードし様々な作業に取り組む姿が見られます。

南陽市立赤湯小学校

「地域総合型教育の実践 桜水プラン」

赤湯小学校は、創立百四十年を越える歴史ある小学校です。平成十五年に新校舎が完成し、オープンスペースの教室、ランチルーム、三百六十度市内を見渡せる展望台など、施設が充実しています。

南陽市全体で、その子の育ちの中で、最もふさわしい時期に適切な教育を行うことに力を入れてい

ます。発達段階に応じた教育、輪切りにならない教育を掲げ、子どもたちを多くの目で見て育てるために、十一年間を見通した連続性のある幼保小中一貫教育を推進しています。

【小1スタートプログラム】

八月から、小学校の教員が年長児に出前授業を行い、プログラムがスタートします。運動会に参加したり、五年生と数回交流したりして、年長児と小学校をつなぎます。入学後は、幼稚園や保育園の先生が一年生に授業を行うことで、卒園した先生とのつながりによる安心感を得られるようにしているそうです。

【AkayuSchool構想】

「南陽市小中学校学習系統表」を作成し、系統的な積み上げのある指導の充実が図られています。定期的に「赤湯の児童生徒を語る会」を開き、十一月に中学校教諭による小学生への授業、中学校へ進学後の六月には小学校旧担任による中学生への授業を行う相互乗り入れ授業を実践しています。

クリン作戦、運動会、音楽会などの行事を通して、子どもたち同士の交流を深めています。また、地域の祭りなどに参加することで、地域の方に認められる喜びが次の意欲となり、地域の活性化にもつながっています。



グループによる授業
赤湯小学校にて

南陽市立中川小学校

「家庭・地域とともに 歩む学校」

南陽市立中川小学校は、南陽市の北東、自然豊かな地域にある全校児童五十一人(複式学級を含む)の小規模校です。赤湯中学校・赤湯小学校・中川児童館とともに、連携型の赤湯中校区幼保小中一貫教育を進めています。幼保小中一貫教育の目標「自主・自立」(自ら考え、進んでやりとげる子ども)の育成を目指し、学校の課題を明確にして取り組む、という重点のもと、「自信を持ち、たくましく生きぬく力」の育成を学校独自の目標に掲げ、日々の教育活動を行っています。

【交流・発表の場を意図的に】

「がんばって自信をつけ隊」として、「やさしくなり隊」など、心・

知・体それぞれの個人目標を廊下等に掲示し、各自の実践や相互の声をかけをしています。複式学級の充実を生かした学習リーダーの育成、赤湯小との合同岩部山登山でのグループリーダーなど、小規模校の利点を生かして自尊感情や自己有用感を高める教育活動を意図的に系統的に教育活動の中に組み込んでいきます。

【地域と一体となった教育活動の 推進】

中川小応援隊による、授業・米作り・読み聞かせ・民話指導等の学校サポート体制、児童館とのボランティア活動や特養老人ホームとの合同避難訓練、民話発表会など、地域活動への積極的な参加や地域を巻き込んだ活動により、地域を知り、地域を元気にする活動を行っています。「中川小で勉強したい」という学校をつくる、という学校全体の目標をもって、教職員が一丸となって日々臨んでいます。



複式学級の授業
中川小学校にて

県外教育事情調査に参加して

下妻市立上妻小学校

根本 美保子

赤湯中学校区の一貫教育は、施設分離型での実践でしたが、連携を密にし、学習指導や生徒指導において、様々な取組を行っていました。小中間だけでなく、小小間の交流も盛んであり、一貫教育を進めるには、縦横両方のつながりを強くすることが大切であることが分かりました。また、学校と地域の教育機能を連携させた「地域総合型教育」も行われていました。

の理念を語っていることを聞き、感銘を受けました。訪問した三校の生き生きとした先生方の姿や、児童生徒が授業に取組む真剣な態度がこの小中一貫教育の成功を示していました。

那珂市立菅谷東小学校

加藤木 晴香

赤湯中学校区三校は、頻繁な定例会での話し合いのもと、児童・生徒・教職員同士の交流活動を多様に実践し、見事に三校が融合した教育を展開されていました。

山形県では、教職員の小中を跨ぐ異動は稀だとのことでしたが、教科ごとの系統表を作成し、全職員が九年間の子ども姿を明確に見通した上で授業を作っていくという体制に感銘を受けました。

小美玉市立美野里中学校

狩谷 秀一

赤湯中学校区では、『自主・自立』自ら考え、進んでやり遂げる子ども育成を小中一貫教育目標として掲げ、指導に当たっていました。今回、特に印象に残ったのは、小中三校が共通指導事項を設け、目標の達成のために強い気持ちで指導に当たっていたことです。事務局の中学校長が、四月初めの小学校の職員会議に出向きそ

した。生徒自ら考えて行っている活動ということが素晴らしく感じました。神栖市立神栖第四中学校

黒澤 拓己

常陸大宮市立御前山小学校

大津 剛

赤湯中学校区では、『自主・自立』自ら考え、進んでやり遂げる子ども育成を小中一貫教育目標として掲げ、指導に当たっていました。今回、特に印象に残ったのは、小中三校が共通指導事項を設け、目標の達成のために強い気持ちで指導に当たっていたことです。事務局の中学校長が、四月初めの小学校の職員会議に出向きそ

山形県の赤湯中学校、赤湯小学校、中川小学校を訪問し、特に印象深かったのは小学校・中学校の様々な連携です。赤湯中学校では携帯電話の所持を認めていません。これを小学校と協力して小学生のうちから携帯電話の所持について保護者にも理解してもらおうという取り組みがありました。携帯電話の所持率と比例して学習面でも素晴らしい成績を収めていました。また、赤湯中学校が中心となり、小学生を交通事故から守る「ありがとう運動」の実施は、学校だけではなく地域全体が一丸となり取り組んでいて、地域で赤湯の小中学生を守り育てている印象でした。今回の視察で小中学生の生き生きとした表情や元気なあいさつから豊かな人間性が育まれていることを感じました。

牛久市立岡田小学校

猪狩 幸子

常陸大宮市立御前山小学校

大津 剛

赤湯中学校区では、『自主・自立』自ら考え、進んでやり遂げる子ども育成を小中一貫教育目標として掲げ、指導に当たっていました。今回、特に印象に残ったのは、小中三校が共通指導事項を設け、目標の達成のために強い気持ちで指導に当たっていたことです。事務局の中学校長が、四月初めの小学校の職員会議に出向きそ

南陽市では地域総合型教育として、十一年間を見通した連続性のある教育体制を整え、地域の教育力を活用することを意識して教育活動に取り組んでいました。様々な取り組みの中でも印象に残ったのは「交通安全ありがとう運動」です。赤湯小学校の生徒が登校中に交通事故で亡くなったことをきっかけに、中学生が小学生の登校の際に安全指導を行うというもので

守谷市立守谷中学校

稲葉 由美子

常陸大宮市立御前山小学校

大津 剛

赤湯中学校区での幼保小・小中一貫教育は、十一年間を見通した連続性のある教育体制を整えてい

きました。幼保小中で、計画的な相互乗り入れ授業を行い、全教職員で子どもたちの学びについて語る場を設けています。学びの連続性を高め、体系的な指導の充実が図られ、生徒指導にも良い効果が出ていることが分かりました。

また、地域の行事への積極的参加や様々な団体との連携により、地域と学校が一体となって子どもたちを育てていく、そのよさを改めて学ぶことができました。

つくば市立谷田部中学校

早水 靖雄

今回の赤湯中学校をはじめ、赤湯小学校、中川小学校の訪問では小中一貫教育の有効性を改めて再確認するとともに、地域の教育資産を活用した地域総合型教育のすばらしさを学ぶことができました。「赤湯生き方まつり」や「ワーク協議会」など少子高齢化が進むこれからの社会の中で、学校を中心とした地域一体のネットワークを確立することで将来を担う子どもたちを町ぐるみで育てようとする熱い思いを感じました。

山形県南陽市の赤湯中学校区では、幼保小中一貫教育の目指す子どもの姿の一つに「夢や希望を持ち、たくましく生きぬく子ども」をあげていました。特にキャリアアップランニング能力、なかでもコミュニケーション能力に重点を置いていました。幼保小中一貫教育のねらいの中にキャリア教育の視点が明確に位置づけられていることに感銘を受けました。小学生の赤

赤湯中学校では、「教師と生徒が共に作り上げる授業」を目指し、研修では生徒の意見を取り入れ授業改善しているなど、授業を大事にしていることを感じました。また、小中相互乗り入れ授業や、学習系統表を活用した九年間を見通した意図的・計画的な学習指導を展開するなど、具体的な学力向上の方策を知ることができました。

稲敷市立君賀小学校

二木 亮一

赤湯中学校区では、『自主・自立』自ら考え、進んでやり遂げる子ども育成を小中一貫教育目標として掲げ、指導に当たっていました。今回、特に印象に残ったのは、小中三校が共通指導事項を設け、目標の達成のために強い気持ちで指導に当たっていたことです。事務局の中学校長が、四月初めの小学校の職員会議に出向きそ

赤湯中学校区では、『自主・自立』自ら考え、進んでやり遂げる子ども育成を小中一貫教育目標として掲げ、指導に当たっていました。今回、特に印象に残ったのは、小中三校が共通指導事項を設け、目標の達成のために強い気持ちで指導に当たっていたことです。事務局の中学校長が、四月初めの小学校の職員会議に出向きそ

赤湯中学校区では、『自主・自立』自ら考え、進んでやり遂げる子ども育成を小中一貫教育目標として掲げ、指導に当たっていました。今回、特に印象に残ったのは、小中三校が共通指導事項を設け、目標の達成のために強い気持ちで指導に当たっていたことです。事務局の中学校長が、四月初めの小学校の職員会議に出向きそ

赤湯中学校区では、『自主・自立』自ら考え、進んでやり遂げる子ども育成を小中一貫教育目標として掲げ、指導に当たっていました。今回、特に印象に残ったのは、小中三校が共通指導事項を設け、目標の達成のために強い気持ちで指導に当たっていたことです。事務局の中学校長が、四月初めの小学校の職員会議に出向きそ

赤湯中学校区では、『自主・自立』自ら考え、進んでやり遂げる子ども育成を小中一貫教育目標として掲げ、指導に当たっていました。今回、特に印象に残ったのは、小中三校が共通指導事項を設け、目標の達成のために強い気持ちで指導に当たっていたことです。事務局の中学校長が、四月初めの小学校の職員会議に出向きそ

赤湯中学校区では、『自主・自立』自ら考え、進んでやり遂げる子ども育成を小中一貫教育目標として掲げ、指導に当たっていました。今回、特に印象に残ったのは、小中三校が共通指導事項を設け、目標の達成のために強い気持ちで指導に当たっていたことです。事務局の中学校長が、四月初めの小学校の職員会議に出向きそ

赤湯中学校区では、『自主・自立』自ら考え、進んでやり遂げる子ども育成を小中一貫教育目標として掲げ、指導に当たっていました。今回、特に印象に残ったのは、小中三校が共通指導事項を設け、目標の達成のために強い気持ちで指導に当たっていたことです。事務局の中学校長が、四月初めの小学校の職員会議に出向きそ

赤湯中学校区では、『自主・自立』自ら考え、進んでやり遂げる子ども育成を小中一貫教育目標として掲げ、指導に当たっていました。今回、特に印象に残ったのは、小中三校が共通指導事項を設け、目標の達成のために強い気持ちで指導に当たっていたことです。事務局の中学校長が、四月初めの小学校の職員会議に出向きそ

赤湯中学校区では、『自主・自立』自ら考え、進んでやり遂げる子ども育成を小中一貫教育目標として掲げ、指導に当たっていました。今回、特に印象に残ったのは、小中三校が共通指導事項を設け、目標の達成のために強い気持ちで指導に当たっていたことです。事務局の中学校長が、四月初めの小学校の職員会議に出向きそ

赤湯中学校区では、『自主・自立』自ら考え、進んでやり遂げる子ども育成を小中一貫教育目標として掲げ、指導に当たっていました。今回、特に印象に残ったのは、小中三校が共通指導事項を設け、目標の達成のために強い気持ちで指導に当たっていたことです。事務局の中学校長が、四月初めの小学校の職員会議に出向きそ

ました。その中で、特に小中一貫教育では、共通指導事項を小中が同じスタンスで指導していくことの重要性を感じました。

赤湯中学校では、「教師と生徒が共に作り上げる授業」を目指し、研修では生徒の意見を取り入れ授業改善しているなど、授業を大事にしていることを感じました。また、小中相互乗り入れ授業や、学習系統表を活用した九年間を見通した意図的・計画的な学習指導を展開するなど、具体的な学力向上の方策を知ることができました。

赤湯中学校では、『自主・自立』自ら考え、進んでやり遂げる子ども育成を小中一貫教育目標として掲げ、指導に当たっていました。今回、特に印象に残ったのは、小中三校が共通指導事項を設け、目標の達成のために強い気持ちで指導に当たっていたことです。事務局の中学校長が、四月初めの小学校の職員会議に出向きそ

赤湯中学校区では、『自主・自立』自ら考え、進んでやり遂げる子ども育成を小中一貫教育目標として掲げ、指導に当たっていました。今回、特に印象に残ったのは、小中三校が共通指導事項を設け、目標の達成のために強い気持ちで指導に当たっていたことです。事務局の中学校長が、四月初めの小学校の職員会議に出向きそ

赤湯中学校区では、『自主・自立』自ら考え、進んでやり遂げる子ども育成を小中一貫教育目標として掲げ、指導に当たっていました。今回、特に印象に残ったのは、小中三校が共通指導事項を設け、目標の達成のために強い気持ちで指導に当たっていたことです。事務局の中学校長が、四月初めの小学校の職員会議に出向きそ

赤湯中学校区では、『自主・自立』自ら考え、進んでやり遂げる子ども育成を小中一貫教育目標として掲げ、指導に当たっていました。今回、特に印象に残ったのは、小中三校が共通指導事項を設け、目標の達成のために強い気持ちで指導に当たっていたことです。事務局の中学校長が、四月初めの小学校の職員会議に出向きそ

赤湯中学校区では、『自主・自立』自ら考え、進んでやり遂げる子ども育成を小中一貫教育目標として掲げ、指導に当たっていました。今回、特に印象に残ったのは、小中三校が共通指導事項を設け、目標の達成のために強い気持ちで指導に当たっていたことです。事務局の中学校長が、四月初めの小学校の職員会議に出向きそ

赤湯中学校区では、『自主・自立』自ら考え、進んでやり遂げる子ども育成を小中一貫教育目標として掲げ、指導に当たっていました。今回、特に印象に残ったのは、小中三校が共通指導事項を設け、目標の達成のために強い気持ちで指導に当たっていたことです。事務局の中学校長が、四月初めの小学校の職員会議に出向きそ

赤湯中学校区では、『自主・自立』自ら考え、進んでやり遂げる子ども育成を小中一貫教育目標として掲げ、指導に当たっていました。今回、特に印象に残ったのは、小中三校が共通指導事項を設け、目標の達成のために強い気持ちで指導に当たっていたことです。事務局の中学校長が、四月初めの小学校の職員会議に出向きそ

赤湯中学校区では、『自主・自立』自ら考え、進んでやり遂げる子ども育成を小中一貫教育目標として掲げ、指導に当たっていました。今回、特に印象に残ったのは、小中三校が共通指導事項を設け、目標の達成のために強い気持ちで指導に当たっていたことです。事務局の中学校長が、四月初めの小学校の職員会議に出向きそ

赤湯中学校区では、『自主・自立』自ら考え、進んでやり遂げる子ども育成を小中一貫教育目標として掲げ、指導に当たっていました。今回、特に印象に残ったのは、小中三校が共通指導事項を設け、目標の達成のために強い気持ちで指導に当たっていたことです。事務局の中学校長が、四月初めの小学校の職員会議に出向きそ

赤湯中学校区では、『自主・自立』自ら考え、進んでやり遂げる子ども育成を小中一貫教育目標として掲げ、指導に当たっていました。今回、特に印象に残ったのは、小中三校が共通指導事項を設け、目標の達成のために強い気持ちで指導に当たっていたことです。事務局の中学校長が、四月初めの小学校の職員会議に出向きそ

赤湯中学校区では、『自主・自立』自ら考え、進んでやり遂げる子ども育成を小中一貫教育目標として掲げ、指導に当たっていました。今回、特に印象に残ったのは、小中三校が共通指導事項を設け、目標の達成のために強い気持ちで指導に当たっていたことです。事務局の中学校長が、四月初めの小学校の職員会議に出向きそ

赤湯中学校区では、『自主・自立』自ら考え、進んでやり遂げる子ども育成を小中一貫教育目標として掲げ、指導に当たっていました。今回、特に印象に残ったのは、小中三校が共通指導事項を設け、目標の達成のために強い気持ちで指導に当たっていたことです。事務局の中学校長が、四月初めの小学校の職員会議に出向きそ

赤湯中学校区では、『自主・自立』自ら考え、進んでやり遂げる子ども育成を小中一貫教育目標として掲げ、指導に当たっていました。今回、特に印象に残ったのは、小中三校が共通指導事項を設け、目標の達成のために強い気持ちで指導に当たっていたことです。事務局の中学校長が、四月初めの小学校の職員会議に出向きそ

赤湯中学校区では、『自主・自立』自ら考え、進んでやり遂げる子ども育成を小中一貫教育目標として掲げ、指導に当たっていました。今回、特に印象に残ったのは、小中三校が共通指導事項を設け、目標の達成のために強い気持ちで指導に当たっていたことです。事務局の中学校長が、四月初めの小学校の職員会議に出向きそ

赤湯中学校区では、『自主・自立』自ら考え、進んでやり遂げる子ども育成を小中一貫教育目標として掲げ、指導に当たっていました。今回、特に印象に残ったのは、小中三校が共通指導事項を設け、目標の達成のために強い気持ちで指導に当たっていたことです。事務局の中学校長が、四月初めの小学校の職員会議に出向きそ

赤湯中学校区では、『自主・自立』自ら考え、進んでやり遂げる子ども育成を小中一貫教育目標として掲げ、指導に当たっていました。今回、特に印象に残ったのは、小中三校が共通指導事項を設け、目標の達成のために強い気持ちで指導に当たっていたことです。事務局の中学校長が、四月初めの小学校の職員会議に出向きそ

視点

学習指導要領の趣旨を踏まえ 創意を活かした特色ある教育課程 の評価及び改善

施設一体型小中一貫校の 特色を生かした教育の推進

水戸市立国田小中学校

校長 吉井 由隆

子供の発達段階を踏まえた系統的な教育課程を編成し、学力の定着を図るとともに、幼・小・中が同じ校舎で学ぶ小規模校の強みを生かし、異学年交流による豊かな関係づくりを進めた。

一 主な取組

四・四・一制による九年一貫教育の推進と、多様な学習形態による指導の充実を図った。

(一)教員の相互乗り入れによる、

専門性を生かした教科担任制

(三・四年生は一部、五・六年

生は本格的に実施)

(二)タブレット等のICT活用による、

思考を深め合う授業の

在り方についての研究

(水戸市より二年間の研究指定

を受け、全教科で実践)

(三)一年生からTTによる算数・

数学指導

(四)AETによる小学校からの

オール・イン・イングリッ

シュの英会話

(五)九年生は七時間授業を実施

(六)幼・小・中合同行事による異

学年交流

(大運動会、文化祭など)

二 主な成果

(一)教科担任制やTTによる個に

応じた指導により、学ぶ意欲

の向上が図られた。

(二)ICTを活用した授業が定着

し、主体的・協働的な学びを

引き出すことができた。

(三)異学年交流により年下の子を

思いやる豊かな心が養われ、

小一プロブレムや中一ギャッ

プの解消に結び付いている。

三 最後に

本年四月の義務教育学校への移行に向け、学校関係者の参画を得ながら準備を進めている。

目的や必要に応じて書く

力・読む力を育てる国語科

学習指導の在り方

北茨城市立精華小学校

校長 乾 孝之

単元を貫く言語活動を位置付け

た授業づくりに主眼をおき、児童に目的や必要に応じて書く力・読む力を育成する指導の在り方について取り組んだ。

一 主な取組

(一)系統表の作成

○マトリックス型年間単元評価

重点一覧表

○書くこと・読むことの領域に

おける年間の見直し一覧表

○言葉の特徴やきまりに関する

事項一覧表

(二)単元を貫く言語活動を充実す

るための手立て

○学習計画表の活用

○モデルの作成

○ワークシートの工夫

○全文掲示・全文シート

(三)言葉の力を付けるための手立て

○スキルアップのための反復練習

○言葉のお宝帳の累積

○言語環境の整備

二 主な成果

(一)年間を見通して、単元においてどの指導事項を取り上げて指導し評価するのかを把握でき、単元を貫く言語活動を充実するための手立てについて多様に考えることができた。

(二)児童の書くことに対する抵抗

が薄れたり、読むことに対する

苦手意識を少なくすることが

でき、児童の学習意欲を高

めることができた。

(三)児童に設問の意味を理解する力や語句の活用法が身に付いてきて、目的や必要に応じて書く力・読む力が付いてきた。

互いのよさを認め合い、高め合う児童の育成を目指して

石岡市立石岡小学校

校長 児島 裕治

本校では、よりよい人間関係を

築き、社会に参画する態度や自治

的能力の育成を図る観点から、特

別活動を基盤とした教育活動の展

開を推進する学校づくりの研究に

取り組んできた。

一 主な取組

(一)組織的研究推進アプローチ

○授業研究部の実践

理論研究・年間計画・話合

い活動スタイル・学習環境等

を通して授業づくりの指標の

明確化と評価・改善を図った。

二 主な成果

○活動研究部の実践
児童会活動や交流活動、学校フォラム等児童主体の活動を重視し、関わりを深める活動の充実を図った。

○調査研究部の実践

意識調査や実態調査による

諸活動の成果と課題の明確化

を図った。

(二)日常的研究推進アプローチ

○低中高ブロック協働研究

各ブロックでの研究の充実を図り、実践交流会形式の研究会による全体での研究の共有化を図った。

○研究の日常化

授業研究月間を設定し、外部

講師や管理職による参観指導を

継続し、授業実践のPDCAサイ

クル機能を重視した。

二 主な成果

(一)集団討議・決定を繰り返すこ

とで、児童の自治的・自発的

な態度が促進され受動的活動

からの脱却が可能になった。

(二)自尊感情や自己有用感を高め

る話合い活動により共感的な

人間関係が醸成されてきた。

(三)研究の共有化と協働実践によ

り指導力の向上及び学習スタ

イルの確立を図った。

学校教育目標の具現化を目指す 指した組織的な取組

守谷市立黒内小学校

校長 吉成 行夫

よりよい教育活動推進のため、本校の課題を正しく見極め改善を図ってきた。

一 主な取組

(一)組織による計画実践評価

「知・徳・体」の三つのプ

ロジェクトチームにより、学

校の課題を取り上げ、毎月一

回の会議時間でPDCAサイ

クルを取り入れた計画実践を行った。

(二) 保幼小中高一貫教育の推進

守谷市の教育の柱である、一貫教育の推進にあたり、市内学校等や守谷中学校区での共通実践に努めた。

二 主な成果

(一) 分ける授業の展開では、学習のしつけの徹底、ICT機器の活用、アクティブラーニングを取り入れた授業づくりを行った。

児童はやる気に目を輝かせ授業に臨んでいた。(知の部会)

(二) 「あじみそ運動」を中学校区で実施しあいさつや掃除の意識を高め実践できた。特に、「掃除黙働」については昨年度からの課題で、プロジェクトチームの計画実践により、向上ぶりが目立った。(徳の部会)

(三) 投力アップを課題とし、全校で県のキャッチボールマスターに継続チャレンジした。たてわり遊びなどでも投力を意識した遊びを選んだ。(体の部会)

思考力・表現力を高める生活科、理科の学習指導の在り方

古河市立下大野小学校

校長 枝 隆夫

平成二十七年小学専科専科事業に

よる小学校専科教員(理科専科)の加配を受け、研修を進めてきた。

一 主な取組

(一) 考えを表現するスキルの向上
○ フリートークを全学年週に一回実施する。

○ 理科学習のスタイルや定型文の活用、表現のポイントカードの提示と活用を図る。

(二) 体験活動の充実

○ 導入実験を工夫し、めあてを明確にして学習意欲を高める。

○ 自由試行の時間の確保に努め、観察や実験等を工夫する。

○ 自然現象への興味・関心を高める体験活動の充実を図る。

(三) 言語活動の充実

○ グラフ化による可視化やイメージ図の活用を図る。

○ 実験計画の討議や実験結果の集団討議活動を工夫する。

○ 伝え合う活動の充実を図り、異学年間の交流を深める。

(四) 職員の指導力の向上
○ 校内研修を推進し理科専科教員の活用を図る。

○ 要請訪問や校内実験実技講座等を実施する。

二 主な成果

(一) アンケートやレポートから、児童の学習意欲が向上した。

(二) 予想や考察を定型文の活用から記録にまとめ、発表できた。

(三) 児童自ら問題点と解決方法を見

い出し問題解決学習を深めた。
(四) 熱気球同乗体験等の体験活動から、興味・関心を高めた。

(五) 問題解決を意識した授業改善から教師の指導力が向上した。

(六) 日常の自然現象に疑問をもち、既習事項と関連付けができた。

適用練習と振り返りの充実に目指した算数科授業の在り方

桜川市立大國小学校

校長 藤田 正美

昨年度までの「学び合い」をベースに、算数科授業の進め方を再検討し、適用練習の質と量の向上及び振り返りの充実に目指した。

一 主な取組

(一) 教師版「大國小算数科授業の進め方」を再検討し、適用練習の時間十分を目標に、比較検討の仕方を工夫したり、ねらいにあった練習問題を用意したりして授業の組み立て方を改善した。

(二) 適用練習の質と量の向上を目指すし、練習問題の洗い出しや活用のための環境整備に努めた。また、「振り返りカード」を工夫し、その時間の充実を図った。

(三) 時間割や指導形態を工夫した T T による指導や少人数指導を実施し、ユニバーサルデザ

インを意識した分かりやすい授業の展開を目指した。

二 主な成果

(一) 「算数科授業の進め方」の再検討をし、授業改善に心がけたことよって、教師の意識も変わり、授業後半部分の時間確保や充実につながった。

(二) 練習問題の質と量の向上を目指したことで、練習問題の取り組ませ方が変わり、後半で補充指導をして理解を深めることができた。

(三) T T や少人数指導、ユニバーサルデザインを意識した分かりやすい授業の展開をしたことで、児童が主体的に取り組み場面が増え、授業に最後まで意欲的に取り組む姿が見られるようになってきた。

授業力ブラッシュアップ研修を生かした学習指導改善の取組

茨城県立長岡小学校

校長 佐川 雅美

「見通しをもち、筋道を立てて考える力を高める指導の在り方・伝えあう学習を通して」を研修主題に、算数科を中心として指導力の向上に努めると共に、学力の向上に努めた。

一 期待する児童の姿
(一) 既習事項を元に、解決のための手立ての見通しをもつこと

で、解けそうだとというやる気ももち、既習事項等を根拠に考えたり発表したりする姿

(二) 三名程度の小グループで考えを伝え合い、学び合う姿

(三) 授業内で評価し、達成児童には発展課題を、未達成児童には補充指導を行い、全員が概ね達成して授業を終る姿

二 主な成果

(一) 今まで学習したことを掲示しておくことで、そこから解決のヒントや方法を見つけ出す姿が定着した。ノートを見直す児童も現れた。解けそうだと見通しがやる気に繋がりが、既習事項を根拠に話す姿が見られるようになった。

(二) 三名程度だと、だれもが話し手となり、伝え合う姿が見られた。楽しそうに学び合う姿もたくさん見られた。

(三) 授業内で補充発展指導まで行うことは難しかったが、指導内容を吟味精選し、時間を生み出して実施した。全員が適用問題まで到達できるようになった。

研究授業は、あえて学力診断のためのテストで正答率の低かった「割合」の単元を選んだ。前年度正答率 7.7% の問題は、今年度 57.7% まで向上させることができた。



関中社授業の様子

研究部

本年度のあゆみ

平成27年度・研究目標 ・活動と反省

国語

生きてはたらく国語の力を
はぐくむ授業の創造

部長 吉井 由隆

重点研究部

本年度は次の事業を実施した。

一 郡市部長研修会

(一) 期日 五月二十六日(火)

(二) 会場 教育プラザいばらき

(三) 講話 「国語科教育の現状と課題」

(講師) 県教育庁学校教育部
義務教育課指導主事

木村 真理先生

小林 詠二先生

二 手作りテスト研修会

三 国語指導者筑波研修会

(一) 期日 七月三十一日(金)

(二) 会場 つくば市ホテル青木屋

(三) 講話 「これからの国語科学習づくり」

(講師) 大妻女子大学児童学科
准教授 樺山 敏郎先生

四 県芸術祭小中学校美術展覧会

(一) 会期 十二月三日(木)

(二) 会場 県民文化センター

※年度末の郡市部長会は、文書報告の形で実施した。

〇研究発表 (八名)

社会

「かわり」を深め、未来を
創る力をはぐくむ社会科学習

部長 磯田 洋

本年度は、次の事業を実施した。

一 郡市部長研修会

(一) 第一回 五月二十六日(金)

(二) 第二回 二月二十六日(金)

二 郷土教育研修会

(一) 期日 八月十一日(火)

(二) 会場 鉾田市大洋公民館

(三) 研究発表

〇鉾田市立巴第一小
桑野 沙奈江先生

〇鉾田市立大洋中学校
深作 貴之先生

〇鉾田市教育委員会
狩野 秀彦先生

〇鉾田市教育委員会
宮内 孝浩先生

〇鉾田市教育委員会
筒井 直子先生

〇鉾田市教育委員会
簡井 直子先生

〇鉾田市教育委員会
澤野 有香先生

〇鉾田市教育委員会
澤野 有香先生

三 各種研究大会への参加

(一) 関小社千葉大会 十一月二十七日

(二) 提案発表 取手市立白山小

(三) 提案発表 取手市立白山小

(四) 講師 文科省初等中等教育局教育課程課
教科調査官 樋口 雅夫先生

四 第三十三回関中社茨城大会

(一) 期日 十一月十二日(木)

(二) 会場 各学校・県立歴史館

(三) 授業者

水戸一中 桑名 実先生

水戸二中 増子 弘之先生

水戸三中 櫻井 誠先生

(四) 講師 文科省初等中等教育局教育課程課
教科調査官 樋口 雅夫先生

〇研究発表 (八名)

工作・美術・図画

感性豊かに創造する力を育
む図画工作・美術教育

部長 堀江 俊夫

本年度は、研究主題のもと次の
事業を実施し、研修を推進した。

一 郡市部長会・研修会

(一) 期日 五月二十八日

(二) 会場 県近代美術館

二 夏季実技研修会

(一) 期日 八月十一日

(二) 会場 茨城大学附属小学校

(三) 講師 東京学芸大学
准教授 西村 德行先生

(四) 内容 「これからの鑑賞教育」

〇研究発表 (八名)

〇研究発表 (八名)

〇研究発表 (八名)

〇研究発表 (八名)

〇研究発表 (八名)

〇研究発表 (八名)

〇研究発表 (八名)

〇研究発表 (八名)

〇研究発表 (八名)

〇研究発表 (八名)

〇研究発表 (八名)

〇研究発表 (八名)

〇研究発表 (八名)

〇研究発表 (八名)

〇研究発表 (八名)

〇研究発表 (八名)

〇研究発表 (八名)

〇研究発表 (八名)

〇研究発表 (八名)

〇研究発表 (八名)

〇研究発表 (八名)

育・体育・保健

「できる、分かる、かわる」
を保証する体育学習

部長 山崎 利一

本年度は、研究主題のもと次の
事業を実施し、研修を推進した。

一 第一回郡市部長研修会

(一) 期日 五月二十六日(火)

(二) 場所 教育プラザいばらき

(三) 内容 組織づくり・事業計画

二 第一回研究推進委員会

(一) 期日 六月二十五日(木)

(二) 場所 教育プラザいばらき

(三) 内容

〇組織づくり：事業計画

〇研修講師

県教育庁学校教育部保健体育
課指導主事 佐藤 貴久先生

三 体育実技研修会(地区別)

(一) 県北(日立市 八月十一日)

(二) 中央(水戸市 八月三日)

四 授業研究会

(一) 期日 十二月二日(水)

(二) 場所 北茨城市立中郷第一小

※体育大好き推進事業研究会

(三) 内容 ネット型ボール運動

五 第二回研究推進委員会

(一) 期日 十二月九日(水)

(二) 場所 教育プラザいばらき

(三) 内容 県研究協議会の運営等

六 学校体育研究協議会

(一) 期日 十二月十二日(金)

(二) 場所 県研修センター

(三) 内容

〇教育講演会 講師 日本体育
大学教授 白旗 和也先生

〇研究発表 (八名)

道徳

他者と共によりよく生きる心豊かな児童・生徒を育てる道徳教育
部長 増田 年男

校図書

確かな学力と豊かな人間性をほぐむ学校図書館・学習センター・情報センター・読書センタ機能のさらなる充実を目指して
部長 木下 美直

特別支援

一人一人のニーズに応じた特別な支援の在り方をめざした教育活動の推進
部長 谷田部 孝子

生徒指導

携帯電話・インターネット利用に関する課題への対応
部長 日下部 秀雄

学校事務

創意と活力に満ちた特色ある学校教育活動を支える学校事務の在り方
部長 石井 誠二

一 第一回郡市部長研究協議会

五月二十七日(水)

二 第二回郡市部長研究協議会並びに第一回研究推進委員会合同研修会

八月六日(木)
講師 宮崎淳司教頭(阿見一小)

三 関フ口小道場玉大会

十一月十三日(金)
鴻巣市立間宮小学校

発表者 須藤勝繁教諭(城西小)
司会者 濱野優子教諭(山川小)

四 関フ口中道場木大会

十一月六日(金)
さくら市立氏家中学校

大田原市立野崎中学校

発表者 水野宏美教諭(滑川中)
司会者 嶺崎貴子教諭(坂本中)

五 第三回郡市部長研究協議会

十一月八日(火)

六 第四回郡市部長研究協議会並びに第二回研究推進委員会合同研修会

二月二十六日(金)

七 各研修会への参加

「全小道・全中道全国大会鉦路大会」

「全小道夏季中央研修講座(東京)」

「全中道道徳教育推進教師育成講座(東京)」

※随時、部長・副部長会議を開催した。

本年度は、研究主題のもと左記の事業を実施した。

一 郡市部長研修会

○第一回 五月二十六日

○第二回 二月十六日

会場 教育プラザいばらき

二 茨城県学校図書館研究大会

(高校教研図書館部と共催)

期日 七月二十八日

会場 笠間市笠間公民館

三 第三十三回関東地区学校図書館研究大会

期日 八月六日、七日

会場 東京都中野Z E R O

発表者 日立市立櫛形小学校

神栖市立息栖小学校

境町立境第二中学校

四 第五十三回茨城県小・中学校読書感想文コンクールの実施

中央審査 十月二日、十四日

いばらき読書フェスティバル

二〇一五への参加、第五十三回

茨城県小・中学校読書感想文コンクール表彰式 十一月八日

会場 茨城県立図書館

六 第二十九回茨城県読書感想画コンクールの実施

中央審査 一月十九日

七 第四十回冬休み子ども読書感想文・絵手紙コンクール後援、審査会

二月二十四日

本年度は、この研究主題のもと次の事業を実施しながら研究・研修を推進した。

一 郡市部長研修会

(一)五月二十一日(木)

(二)二月二十五日(木)

二 関東甲信越地区特別支援教育研究協議会茨城大会

期日 八月七日(金)

場所 筑波大学大学会館他

「一人一人が輝き、豊かに生きる力を育む特別支援教育の充実を目指して」

三 特別支援学級担当者研修会

自閉症・情緒障害教育研究会

会、難聴・言語障害教育研究会

会で全県または、五つのブロックごとに担当者研修会を実施し、担当者の資質の向上を図った。

四 進路実態調査

中学校特別支援学級卒業生の進路実態調査を実施し、冊子を配布して情報の共有化を図った。

五 ナイスハートふれあいフェスティバルへの参加

期日 十二月十一日～十四日

六 「いばら四十八号」の発行

会場 県民文化センター

学習発表会及び作品展に参加

七 「いばら四十八号」の発行

反省と次年度の準備

三 第二回郡市部長研修会

期日 一月二十九日(金)

四 実践発表、協議

中央、県西ブロック代表

五 第二回郡市部長研修会

期日 一月二十九日(金)

六 実践発表、協議

中央、県西ブロック代表

七 第二回郡市部長研修会

期日 一月二十九日(金)

八 実践発表、協議

中央、県西ブロック代表

本年度の研究主題に基づき、以下の事業を実施した。

一 第一回郡市部長研修会

期日 五月二十六日(火)

会場 教育プラザいばらき

二 県生徒指導研修会

期日 十一月二十日(金)

場所 教育プラザいばらき

三 内容

講演 「本県の携帯電話・インターネット利用に関する課題」

四 講師

安 尊彦様

五 講師

茨城県水戸教育事務所

六 主任指導主事兼生徒指導班長

築瀬 浩幸先生

七 実践発表、協議

中央、県西ブロック代表

八 第二回郡市部長研修会

期日 一月二十九日(金)

九 場所

教育プラザいばらき

十 内容

「本県における生徒指導の現状と課題」

十一 講師

県教育庁義務教育課

十二 生徒指導推進室長補佐

志賀 正章先生

十三 反省と次年度の準備

反省と次年度の準備

十四 反省と次年度の準備

反省と次年度の準備

本年度は、左記の事業を実施した。

一 郡市部長会・研修会

一 郡市部長研修会

第一回 五月二十二日(金)

第二回 十一月十二日(木)

中央ブロック研究協議会について

研究主題・組織・研修計画

研究協議会について

中央ブロック研究協議会について

事業報告・成果と課題

中央ブロック運営委員研修会

各郡市部研修会

茨城県学校事務研究協議会

開催担当 中央ブロック

期日 一月二十二日(金)

会場 笠間公民館大ホール

研究主題

活力ある学校づくりを支える

学校事務の在り方

提案者

水戸市立飯富小学校

教諭 綿引 実

水戸市立見川小学校

係長 雨谷 佐緒里

水戸市立飯富小学校

主任 森 裕子

「学校事務研究部のあゆみ」作成

作成

作成

作成

キャリア教育
社会的・職業的自立に向けたキャリア教育の在り方
部長 川俣 智

「小学校からの発達の段階に応じた体系的な基礎的・汎用的能力の育成を通して」をサブテーマとして、目的の達成を図るため以下の事業を実施し研究を進めた。

一 研究集録の刊行

各郡市で行われた研究発表の中から各地区から選出し、集録で紹介することにより指導力向上を図った。また、関中進東京大会に研究推進委員が参加し、全体会や分科会の様子を記録にまとめ報告した。

二 県キャリア教育研究発表会

十一月二十日(金) 高萩市立松岡中学校を会場に開催した。「社会的・職業的自立に必要な態度や能力の育成」課題解決に向けて高め合う教育活動をつないで」をテーマに公開授業・研究発表が行われた。

三 県版「中学生活と進路」の編集

茨城県版の最新データに更新した指導資料集を作成した。

四 調査研究

県内小・中学校のキャリア教育に係る取組について、また、県立高校・私立高校入学者の選抜に係る調査を行いまとめた。

学校健康
主体的に生きるための学校健康教育の在り方
部長 雨海 祐彦

本年度は次の四事業を実施した。

一 郡市部長会並びに研修会

五月
講話 「学校健康教育の現状と課題について」その一
講師 県教育庁保健体育課 健康教育推進室長 山口 修様

二 役員・研究推進委員研修会

六月
講話 「学校健康教育の現状と課題について」その二
講師 県教育庁保健体育課 健康教育推進室長 山口 修様

三 ブロック別研究協議会

(一)中央 教育プラザいばらき 十一月
(二)県北 久慈川日立南交流センター 十一月
(三)県南 石岡中央公民館 十一月

四 教育講演会・郡市部長並びに研究推進委員研修会

二月
講話 「今後の学校健康教育について」次年度に向けて」
講師 県教育庁保健体育課 指導主事 菊池 耕様

(一)ブロック別研究協議会報告

(二)本年度の事業の反省とまとめ
(三)次年度の事業計画と立案

その他

教育課程
創意ある教育課程の編成・実施と評価・改善
部長 木村 明弘

今年度は、重点指定年度以外に当たするため、業務の軽量化・効率化の視点から、第一回郡市部長研修会を五月二十八日(木)に教育プラザいばらきにおいて実施するに留めた。年度末の郡市部長会議は、電子メールにて事業報告と決算報告を行うことで代替した。

第一回郡市部長研修会では、今年度から一部改正の学習指導要領の趣旨を踏まえて取り組みが可能になった道徳の教科化への対応や学習指導要領改訂の視点にあるアクティブ・ラーニングの考え方を話題にした。

今後も引き続き、各市町村の教育研究会や近隣学校との連携により、新たな教育課題に対応できる創意ある教育課程を編成していくことが求められる。

算数・数学
自らに問いかけ粘り強く考える力を育成する指導と評価
部長 深見 晋

本年度は、研究主題のもと、次の事業を実施した。

一 研究協議会並びに研修会

(一)第一回 五月二十二日(金)
○事業計画及び研究主題の検討
(二)第二回 九月八日(火)
○ブロック別研究協議・研修会
○講話 茨城大学教育学部 教授 根本 博先生

(三)第三回 二月十七日(水)

○事業報告、次年度の事業計画
○講話 県教育庁義務教育課 指導主事 小林 栄司先生

二 学習指導法研究協議会

(一)前期 六月十九日(金)
○公開授業
常陸大宮市立大宮西小学校
常陸大宮市立大宮中学校
(二)後期 十一月十七日(火)
○公開授業
常陸太田市立太田小学校
常陸太田市立太田中学校

三 五ブロック別指導法研究会

○研究発表・研究協議

二 役員研修会

十一月十八日(水)
教育プラザいばらき

三 関東地区小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会群馬大会(前橋市)への参加

期日 十一月十三日(金)
提案者 潮来市立津知小学校
司会者 潮来市立日の出小学校

理科

本年度は以下の事業を行った。
一 地区別実験実技研修会
県北・中央・県東地区

二 科学教育研修会
県南・県西地区
三 児童生徒科学研究作品展
(一)地区展
○期日 九月三十日～十月六日
○会場 県内五会場
(二)県展
○期日 十月十五日
○会場 茨城県自然博物館

四 茨城県発明工夫作品展
(一)地区展
○会場 茨城県自然博物館
科学研究作品展と同時開催
(二)県展
○期日 十月二十一日
○会場 茨城県立青少年会館

生活・総合

生活科総合的な学習の時間の幼・小・中連携を深める授業づくり
部長 大山 紀子

一 郡市部長研修会及び役員会

五月二十日(水)
教育プラザいばらき

二 役員研修会

十一月十八日(水)
教育プラザいばらき

三 関東地区小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会群馬大会(前橋市)への参加

期日 十一月十三日(金)
提案者 潮来市立津知小学校
司会者 潮来市立日の出小学校

二 役員研修会

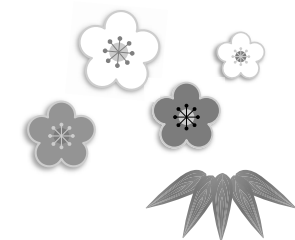
十一月十八日(水)
教育プラザいばらき

三 関東地区小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会群馬大会(前橋市)への参加

期日 十一月十三日(金)
提案者 潮来市立津知小学校
司会者 潮来市立日の出小学校

二 役員研修会

十一月十八日(水)
教育プラザいばらき



校長 茂木 悦男先生
実言者 鹿嶋市立鹿島中学校
副校長 茂木 政則先生

※大会キーワード「探究心」

四 その他

○平成二十八年度

関東ブロック大会

埼玉県 (県南)

全国大会

青森県 (県西)

音楽

共に親しみ 共に楽しみながら
心をつなぐ音楽を求めて

部長 仁平 良治

本年度は、昨年度開催された関東音楽教育研究会の反省を生かした次の事業を実施しながら現研究主題の総括を行った。

【本年度の主な事業】

一 郡市部長研修会 5/22・2/23

講師 茨城県教育庁義務教育課

指導主事 岡部 正徳先生

二 研究推進委員会役員会 11/25

新しい研究主題について

会場 新荘小

三 実技研修会・指導法研修会

(一)歌唱指導法研修会 6/30

会場 小美玉市 アピオス

(二)器楽実技研修会 8/19

会場 茨城大教育学部附属小

四 茨城県芸術祭小中学校合唱合奏大会 (教育庁文化課主管)

(一)打合会 (研修センター) 10/1

(二)中学校の部 11/11

(三)小学校の部 11/12

会場 県民文化センター

五 茨城県リコーダーコンテスト

フェスティバル 2/10

会場 東海文化センター

家庭技術

・家族の関わりを大切に、生活における自立の基礎を培う(家庭科学習の在り方)(小学校・生活や社会との関わりを深める技術・家庭科教育)(中学校)

部長 磯崎 則男

一 郡市部長研修会六・二月

二 いばらきものづくり教育フェア

(一)アイディアバックコンテスト

日立市立助川中学校

(二)木工チャレンジコンテスト

高萩市立秋山中学校

(三)おべんとうコンクール

行方市立玉造中学校

(四)アイディアロボットコンテスト

つくば市立谷田部東中学校

(五)児童生徒作品コンクール

(六)いばらきロボットコンテスト

イオンモール内原

三 関フロ山梨大会提案発表

○技術科提案 「材料と加工に

関する技術」

○家庭科提案 「身近な消費生

活と環境」

英語

英語を意欲的に学び、積極的に「発信」しようとする児童生徒の育成

部長 皆川 澄雄

本年度は、研究テーマを継続し、「楽しい外国語活動から確かな中学校英語への滑らかな接続」

と副題を定め研究を推進した。

◎主な事業

一 郡市部長、専門委員(小・中)合同研修会

・期日 ①五月二十七日(水)

②二月十日(水)

二 英語インタラクティブフォーラム

・各都市、各地区大会

・県大会 八月二十一日(金)

筑波学院大学(つくば市)

三 第六十七回高円宮杯全日本中学校英語弁論大会茨城県大会

・期日 十月八日(木)

茨城県教育研修センター

参加生徒 七十八名

四 第三十九回関東甲信地区中学校英語教育協議会千葉大会

・期日 十一月十三日(金)

発表者 下妻市立下妻中学校

荒井 涼子教諭

特別活動

集団や社会の一員として、よりよい人間関係を築く力を育てる特別活動の在り方

部長 大高 美子

一 郡市部長研修会

(一)第一回 五月二十九日

○研究主題設定・組織づくり

○前年度事業報告・決算報告

○本年度事業計画・予算の審議

○研修 特別活動の指導資料の活用について

二 研究推進委員会(年三回)

平成二十八年度に研究協議会を実施する県東ブロック中心に

研究推進委員会、授業研究会を実施した。会場は、すべて行方市立玉造小で行った。

(一)第一回 六月五日

(二)第二回 六月二十五日

(三)第三回 十二月十日

三 授業研究会 二月十九日

模擬授業公開と研究協議

四 事業報告・決算報告等(メールによる)

今年度は重点指定ではないので、業務の効率化の観点から、第二回郡市部長研修会を実施せず、メールによる報告にした。

今年度は重点指定ではないので、業務の効率化の観点から、第二回郡市部長研修会を実施せず、メールによる報告にした。

情報教育

学ぶ楽しさを実感し、確かな学力を身につけるためのICTの活用

部長 陶 慶一

一 情報教育関連事業

(一)郡市部長研究協議会

六月二日 教育プラザ

(二)郡市部長研究協議会文書報告

二 統計教育関連事業

(一)統計グラフコンクール実施説明会 六月八日 県庁

(二)統計グラフ指導者講習会 六月十一日 県庁

(三)統計グラフコンクール地区審査会 九月二日(県内五地区)

(四)統計グラフコンクール中央地区審査会 九月九日 県庁

(五)統計グラフコンクール県審査会 九月十六日 県庁

(六)全国並びに県統計グラフコン

クール表彰式 一月二十日 県庁

三 放送教育関連事業

(一)NHK杯中学校放送コンテスト茨城大会 六月十八日 NHK水戸放送局

四 視聴覚教育関連事業

(一)自作視聴覚教材等発表会 二月二十日 水戸生学セ

学級経営

一人一人が輝く学級経営

部長 上田 壽行

一 郡市部長会議

(一)第一回 五月二十八日(木)

○平成二十七年組織の編成

○平成二十六年度事業報告

○平成二十六年度決算報告

○平成二十七年事業計画

○平成二十七年事業計画作成

○平成二十七年事業計画

○その他申し送り事項確認

二 事業報告及び事業計画について(メール送信)

(一)郡市部長への報告

事業報告及び事業計画、引き継ぎ事項等については、部長、副部長の協議を経た上で、事務局から各郡市部長にメールでの報告をした。

三 次年度事業予定

(一)郡市部長研修会

(二)郡市部長研究推進委員会

- (三)各ブロック別研修会
- (四)学級経営研究発表会
- (五)学級経営研究部研究紀要発刊

人権教育
人権尊重の精神の涵養を
目指す人権教育の推進
部長 大和田 栄

本年度は人権教育推進のために、郡市部長研修会での講話内容の充実を図って取組を進めてきた。

一 第一回郡市部長研修会

- (一)期日 五月二十二日(金)
- (二)会場 教育プラザいばらき
- (三)内容

○平成二十七年組織づくり

○講話 演題『児童相談所の機能と児童虐待について』

講師 福祉相談センター中央児
童相談所相談援助課健全
育成主査 大塚 敬昌先生

二 第二回郡市部長研修会

- (一)期日 二月十六日(火)
- (二)会場 教育プラザいばらき
- (三)内容

○平成二十八年度事業内容検討

○講話 演題『茨城県における人権教育の現状について』

講師 茨城県教育庁総務企画部
総務課人権教育室社会
教育 主事 西山 力先生

平成二十七年年度 研究大会

「かかわり」を深め、未来を創る力をはぐくむ
社会科学習 関中社茨城大会実行委員長 磯田 洋

平成二十七年十一月十二日に開催された第三十三回関東ブロック中学校社会科学教育研究大会茨城大会は、県内外から五百名近い先生方にご参加いただき、盛会のうちに大会を終えることができました。

今回の大会は、研究主題を「『かかわり』を深め、未来を創る力をはぐくむ社会科学習」として、平成二十四年度から全県をあげて研究を進めてきた。県内五ブロックを総務部、研究部、会場部、庶務部、編集部に分けてそれぞれに準備を進めてきた。大会の運営全般については事務局が担当し、各部の連絡・調整に当たってきた。

今大会の基調でも述べた「社会的対象同士」、「学習者同士」、「今までの自分とこれからの自分との」三つの「かかわり」を深めるなかで、知っていることを使ってどのように社会・世界と関わるかという「未来を創る力」をはぐくむことができた。本大会での取り組みが今後の茨城県の社会科学教育の指針となることを願っている。

大会当日は、午前中に三の丸ホテルにおいて全体会を行い、大会基調提案、講師指導、文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官の樋口雅夫先生による「主体的に社会参画しようとする意欲や態度を育成する社会科学習―『自立・協働・創造』の理念を踏まえて―」を演題とした記念講演を行った。午後は公開授業及び分科会を水戸市内三会場に分かれて行った。地理的分野「世界の

諸地域」を水戸市立第一中学校の増子弘之教諭が、「歴史的分野「中世の日本」を水戸市立第一中学校の桑名実教諭が、公民的分野「私たちのくらしと経済」を水戸市立第三中学校の櫻井誠教諭がそれぞれ公開した。授業後、授業分科会を行い三つのかかわりを中心に活発な議論がなされた。

「知識基盤社会」「グローバル化」「21世紀型能力」「コミュニケーション能力」など、これからの教育に関わるキーワードは数多くあり、そして、これからは、「何を知っているか」という知識偏重ではなく、「知っていることを使ってどのように社会・世界とかわるか」という活用が重視されていくと考えられる。課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習である「アクティブラーニング」と呼ばれる学習方法や、知識やスキルを使いこなすことを求める「パフォーマンス評価」など、教育の場に新しい考えが導入されていく。このような変革の時期に、茨城県で関東ブロック中学校社会科学教育研究大会が開催できたことは、大変意義深いものがあると考えられる。

本大会の開催にご支援・ご協力いただきました茨城県教育委員会・水戸市教育委員会、水戸市、茨城県教育弘済会、並びに全国中学校社会科学教育研究会・関東ブロック中学校社会科学教育研究会、各授業校、会場の茨城県立歴史館の皆様方に厚く御礼申し上げます。

特別支援

一人一人が輝き、豊かに生きる力を育む特別支援教育の充実を目指して
茨城大会副会長 谷田部 孝子

一 はじめに

八月七日、第四十九回全日本特別支援教育研究連盟関東甲信越地区特別支援教育研究協議会茨城大会が筑波大学において開催されました。全体会、分科会で熱心に協議する先生方を見て、これまで準備された各郡市部長の先生方や各校の関係職員のみなさんのご苦勞が報われたことを思い、感謝の気持ちでいっぱいでした。

二 圧巻の「しらとり太鼓」

研究協議会当日は、一五〇〇人を超える茨城県内外の先生方が、会場に集まってくる時間、アトラクションとして発表してくれた、指定障害者支援施設「ピアしらとり」の(知的に障害のある)利用者と職員で構成する「しらとり太鼓」のみなさんによる迫力ある太鼓の演奏や六頭の龍の見事な演技に圧倒されました。それは、一つのこと協力して打ち込んだ出演者のみなさんの達成感が感動となって伝わってきた瞬間でもありました。

三 全体会 宮本信也教授の記念講演

筑波大学特別支援教育研究センター長の宮本信也教授による記念講演を催しました。演題を「発達障害の理解と支援―特性と障害を

分けて考える視点―」として、ご講演いただきました。

講演の内容で、次のような言葉が心に残りました。「子どもを変えることは難しい。そうではなく『子どもの状態を変えること』これが『支援』である。支援するとは、子どもを励まし、やってみようと思いう心を育て、支えることなのだ。」大会に参加した先生方も私同様、感銘を受けたのでしょうか。頷き、メモを取り、積極的に参加していました。

四 熱心な協議がなされた分科会

十八の分科会において三十六の提案があり、本県からその半分を提案することができました。どの分科会でもこれまで取り組んできた研究の成果が発表され、それに基づいた質疑や協議が熱心に行われました。参会のみなさんが、児童生徒の輝きや豊かに生きる力を育むために真摯に教育活動に取り組んでいることを改めて感じることができました。

五 おわりに

今大会に参加した一五〇〇人を超える仲間達が、今後も情報を交換し合い、創意を生かした実践とその振り返りを次の改善につなげていただくことを願っています。



平成27年度 郡市支部の研究活動と 次年度の構想

水戸 竹内 修

本年度は、研究発表大会、奨励論文募集、プロジェクト研修や研修視察等の事業を実施し、会員の資質向上や指導力の向上等に大きな成果を収めることができた。

次年度も、水戸市総合教育研究所と連携を図り、会員間の協力体制を更に強化し、事業内容の工夫改善により、魅力ある「水戸スタイルの教育」の推進に努めたい。

笠間 磯 博美

児童生徒の生きる力の育成を目指し、十一の重点研究部を中心に、夏季研究発表会や年度末の教育実践発表会を開催し、教職員の研修の充実を図った。さらに、各校の研究をまとめた研究紀要を発行し、各校の成果を共有した。

次年度は、本年度の成果と課題を踏まえ、各事業の一層の充実を図っていききたい。

ひたちなか 前嶋 茂男

本年度は、市学校教育活動推進のためのキーワード「感動・笑顔・教師力」の実現を目指し、学びのきざしを活用した学びの集団づくり、夏季講演会、小中連携による学力向上等に取り組んできた。各研究部においても授業力の向上にむけて諸教育活動を実施した。

次年度は指導と評価の計画の作成

を中心に事業の充実に努めたい。

常陸大宮 小林 正之

本市の掲げる「郷育立市」を基盤に、将来地元でも輝くことのできる児童・生徒の育成に努めている。

今年度は重点研究部を指定して、各研究部活動の充実を図り成果を収めた。教育講演会では、講師に元ラグビー選手の松瀬学氏を招聘し、有意義な時間を過ごした。

次年度も今年度の事業改善をもとに、活動の活性化を図りたい。

那珂市 草柳 茂紀

本年度は、小中一貫教育の本格的な実施に伴い、各研究部の研究テーマを小中一貫教育に関連した内容にするよう指示した。また、研究指定の研究テーマも、できるだけ小中一貫教育に関連したテーマで発表するようにした。

小美玉 柴山 久

本年度は、各専門部・教科領域部が自主研修会や授業研究会を推進し、会員の資質向上に努めた。

教研究発表会、教研指定発表会(羽鳥幼稚園、羽鳥小学校)、教育論文募集を行い、会報や研究紀要としてまとめた。また、市教研と共催で池田繁美氏を講師に教育講演

会を開催した。

次年度も各事業の一層の充実を図りたい。

東茨城 藤田 達人

八月に郡教研究発表大会が青葉中会場に、七研究部十四の提案発表があり、「一人一人が輝く『信頼と活力に満ちた特色ある学校づくり』を目指して」をテーマに行われ実のある研究発表会となった。三町とも、互いに連携を図りながらそれぞれの特色を生かした研修に取り組み、活動の充実と会員のさらなる資質の向上に努めたい。

那珂郡 黒田 隆久

本年度は教師力向上と児童生徒の生きる力を育むための研究発表会を行い、実践的な研修ができた。

また、村指定の研究授業を東海南中学校において「主体的な学び合い」をテーマに開催し、研究の成果を残すことができた。次年度は、国語科の実践研究を中丸小学校にて展開し、更なる村教育研究会の研修の充実に向けて行きたい。

久慈 益子 智好

町教育研究会での発表や各研究部主体の諸事業、機関誌の発行、初任者研修、筑波大学との連携・協力事業等多大なる成果を収めることができた。大子学への取組や小中合同の陸上競技大会等初めての試みも充

実したものとなった。

次年度も、事業内容の更なる工夫改善と活動の活性化を図り、会員の資質向上に努めたい。

日立 松本 幸次

「一人一人が夢や希望をもち、生きぬく力を育む教育の研究と実践」に努め、子どもたちの「いいところ発見づくり」を会員一同力を結集して取り組んだ。特に、選択と集中によるスクラップ&ビルドを実現するため年間を通して、各種事業の見直し改善を図った。

次年度に向け、この流れを加速させ効果的な教育を目指したい。

常陸太田 寺門 茂幸

本市教育プランの具現化を図るために、各学校及び各研究部が連携してきめ細かな教育の推進に努めた。児童生徒に対する教育奨励事業も計画通りに実施し、教育振興大会で多くの子が表彰された。

次年度も教育委員会や学校長会との連携を図り、本市の教育のより一層の充実に向けて本会の活性化と会員の資質向上に努めたい。

高萩 花園 文嘉

本年度の活動方針に基づき、各教科・領域研究部の推進と共に、会員の授業力向上に努めた。特に、キャリア教育の研究発表、市教委と各研究部が連携した学力向上の施策

が実施された。また、教育論文の応募、内容が充実した。

次年度は、本年度の反省を生かして、研究体制・事業の計画を策定し、全会員の資質向上に努めたい。

北茨城 乾 孝之

本年度は、若い教職員の割合が増えてきた実態に合わせて「学力向上対策委員会」の活動を、より実践的な内容に大きく改善した。

新たに、「学力向上研修会」を設け、講師による師範授業を参観し、研究協議を通して、授業力向上を目指した。来年度も、新たな教育課題への対応に向けて、事業内容の工夫改善を図りたい。

鹿嶋 内芝 秀美

鹿嶋市教育会研究推進連絡協議会を組織し「地域とともにすすめる特色ある学校づくり」をテーマとして今年度も取り組んだ。

○教育研究発表会（個人・学校）

○研究集録（第二十集）

次年度も、「未来に羽ばたく鹿嶋っ子」の育成に向け、引き続き全研究部をあげて授業改善に取り組み会員の資質向上を図りたい。

神栖 立野 健二

本年度の主な取組は、各研究部・教養部等における研修に加えて、①教育研究発表会及び講演会②市統一テスト「のびコン」③指定研究発表

会（3校）④小学校陸上記録会⑤音楽発表会⑥『神栖の子』発行等である。次年度も活動内容の精選化・重点化を図るとともに、神栖市授業スタイルを充実させ会員の資質向上に努めたい。

鉾田 大山 祐司

本年度は、「鉾田市授業スタイルを確立し、授業力向上を図る」を共通テーマとして市内小中二十四校が公開授業や自校の研究に取り組み、成果をあげた。

次年度は、本市の教育環境充実の方針により「教育機器（タブレット等）」導入が決定しており、効果的な活用について研究を深めたい。

潮来 宮内 藤夫

児童生徒の「生きる力」を育むことを目指し、研究の重点を踏まえた授業研究会や研修会、児童生徒の諸活動を行ってきた。

なかでも、三校の市学習指導研究発表会の充実や教育研究発表会への応募者の増加など、教育会の活動が例年以上に活発に推進できた。

次年度は、今年度の成果を踏まえ、更なる充実を図っていききたい。

行方 幡谷 栄

各教養部や各研究部で研究の重点を踏まえ、自主的研修会や授業研究会を推進し、会員相互の資質向上に努めた。また、教育研究発表会、

市教育会研究指定校の発表会（麻生東小学校、玉造幼稚園）などを実施し、幼小中の連携強化と各事業の一層の充実を努めた。

次年度は、二校減少するが、さらなる事業の充実を図りたい。

土浦 岡野 剛史

学習指導要領を踏まえ、児童生徒の「生きる力」を育むために、研究目標の重点化を図り、着実な研究活動を推進してきた。特に、八月に実施した全員研究協議会では、三十名の発表者を中心に活発な研究協議が行われた。

次年度も業務の改善を念頭に置きながら、質を落とさず研究の充実を図っていききたい。

石岡 櫻井 光好

本年度は、各研究部の研修に加え、研究発表会、研究指定校の発表会（小学校三校、中学校一校）、教育論文発表会等を実施した。

次年度に向け、各学校や各研究部の課題を明確にするとともに、研究体制を見直し、実践研究の充実を図りたい。また、本市独自の「ふるさと学習」が始まる。ねらいを周知し、内容を充実させたい。

龍ヶ崎 石井 英世

本市教育研究会は「グローバル化社会の中で活躍できる児童生徒の「生きる力」の育成」をめざして研

究に取り組んできた。まとめとなる研究紀要「龍ヶ崎教育」を編集中心である。

本年度の取組を継続するとともに、来年度は児童生徒の学力の向上に視点を定め、各研究部の実践研究の充実を図っていききたい。

取手 戸部 明彦

本年度は、「知性に富み心身ともに健全な児童生徒の育成」をテーマに、二十二の研究部で、外部講師を招聘した、実技研修や研究授業、実践発表会等を行った。全会員による、自主的・実践的な研究活動を通して、教職員の資質向上に努めてきた。

次年度も本年度の成果と課題を踏まえ、研究活動の改善充実を努めたい。

牛久 岩田 博

本年度より、教育研究会指定の研究発表会をなくし、昨年度より開始した各小中学校が毎月実施している校内授業研修会に中学校区を中心に自由に参加する形に完全に移行した。夏期研究協議会も授業ビデオを全員で見つて協議するスタイルに変わっておりつつある。

次年度も日々の授業づくりを大切にする研修を進めたい。

つくば 島田 常

本市小中一貫教育の完成期である今年度は、各研究部で学びのイノベーションを推進し全市での取組は

もとより、各学園での実践研究を充実させ成果をあげてきた。本市独自の教科である「つくばスタイル科」による次世代型スキルの育成にも積極的に取り組んだ。

次年度は、義務教育学校を視野に入れた教育課程の検討を目指す。

守谷 吉成 行夫

「たくましく生きる力を育む教育」をテーマに実践に取り組んできた。秋には二指定校の研究発表会を開催し、守谷市が掲げる小中一貫教育「学びのプラン」の達成状況を参観した。今年度から市内にある高校や私立の小学校・幼稚園・保育所にも案内し、幅広い研修交流を実施した。英語教育や情報教育の充実も図った。

稲敷市 山本 益実

本年度は「生きる力のある園児・児童・生徒の育成」のテーマのもと、八月全員研修会、十月高田小発表会、十一月あずま南小発表会、二月論文表彰式及び研究発表会を実施し、教職員の教育力・資質能力の向上に努めた。

次年度は、組織運営の改善を図り、本市の課題に合致した研究活動を、各校・研究部で進めたい。

かすみがうら 稲生 耕一

児童生徒の生きる力の育成と教職員の資質・能力の向上を目指して活

動した。特に研究発表会では付箋紙を用いた参加型の研修を行い、教育講演会では「子供へのかかわり方」を学ぶ機会とした。

次年度小学校が五校減少することから、組織等の見直しを行った。今年度以上の充実した活動になるよう努めたい。

いばらき 廣瀬 茂

本年度は、道徳の教科化を受け、「感じ、考え、共によりよく生きる心を育てる」新学習指導要領の告示を受けて」という演題の下、東京福祉大学特任教授福田富美雄先生の講演会を開催した。法的根拠と授業実践例について研修した。

次年度も市教育委員会や学校長会との連携を十分図り、有意義な研究活動の推進に努めたい。

稲敷郡 坪田 和広

本年度は、十月と十一月に美浦村立安中小学校・河内町立河内中学校・阿見町立竹来中学校で、郡教育研究会委嘱の発表会が、テーマに基づいて行われ、多くの成果を得ることができた。

次年度は、それぞれの課題の克服に向け、互いに連携を図りながら各々の強みを生かした研修に取り組み、会員の資質の向上に努めたい。

北相馬 川村由紀夫

本年度は、教職員の資質・能力の向上と児童生徒の「生きる力」の育成を目指し、夏季研修会や研究発表会（各校の実践発表）を実施した。小規模の利点を生かし、小中連携を密にしている効率的な運営ができた成果も上げてきた。

次年度は、新たな教育課題への対応等に向けた研修や各事業のより一層の充実に向けていきたい。

古河 浅野 雅之

研究指定校六校を会場に研究発表会を行った。授業に対する各校の誠実で熱意ある取組が見られた。また、陸上記録会や小中学校音楽会等の行事を開催した。児童生徒の自信につながる活動となった。各研究部と全校の研究を紀要としてまとめ、共有することができた。次年度は、振り返りをもとに、さらに充実した活動を展開したい。

結城市 鈴木 聡

夏季研修講座では、より実践的な研修ができるように、6つの研究部において実技研修会を行った。

また、多くの研究部では外部から専門的な講師を招いて充実を図ることができた。その成果と課題については「結城の教育」第五十一号にまとめ、全会員で共有した。

次年度は、本年度の反省を生か

し、活動の充実を図っていきたい。

下妻 大島 正

本年度は、教職員の資質能力の向上と児童生徒の生きる力の育成を目指し、各研究部の活動を中心に、全会員が自主的・実践的な研究を計画的に進めてきた。指定研究では、県教委や市教委と連携し五校が研究実践の成果を発表した。

次年度も本年度の反省を生かし活動の活性化を図るとともに、会員の資質能力の向上に努めたい。

常総 中島 哲夫

本年度は、教科領域部を中心に、研修会や授業研究会、各種行事等を実施するとともに、小学校三校及び中学校一校の独自研究発表会、教育講演会、教育論文募集等とおして、会員の資質向上に努めた。また、これらを研究紀要としてまとめ、活用を目指した。

次年度は、前述の取組等に加え、小中連携の充実を図りたい。

筑西 海老原 覚

本年度、筑西市教育研究会では、「一人一人が輝く活力ある学校づくり」を目指し、児童生徒の「生きる力」の育成と教職員の資質・能力の向上に努めてきた。各教科領域研究部による授業研究会や四校の研究発表会、教育論文募集、研究紀要の発行等を行った。

次年度も新たな教育課題への対応等、研修の充実を努めたい。

坂東 鈴木 昇

本年度は、市教育研究発表会での四研究分野の発表、市研究指定校三校での研究発表会を実施した。発表会には、多くの会員が参加し、資質向上に努めることができた。また、重点研究部の計画的な取組を推進すると共に、各種活動をまとめた研究紀要を発行した。

次年度も反省を生かし、さらなる会員の資質向上に努めたい。

桜川 吉原 敏八

市教育研究会の指定を受けた小学校二校、中学校一校（大國小・真壁小・桃山中）で授業力向上に重点をおいた授業研究会を実施した。各教科・教科外の研究部では、課題解決を目指し、実践的な研究協議に取り組んだ。次年度は、本年度の取り組みを検証し、その成果と課題を踏まえ、更なる教育活動の充実を図ってきたい。

結城郡 秋葉 道夫

学習指導要領の趣旨を踏まえ、研修会や発表会を実施してきた。成果と課題については、研究紀要四十四号にまとめて全会員に配布した。研究指定校の実践や最優秀教育論文を発表した実践報告会は貴重な会員研修の場となった。

次年度も、県の動向や本年度の成果と課題を踏まえ、活動の充実を図ってきたい。

猿島 吉岡 誠一

本年度は、学力の三要素の充実を通して、知徳体の調和のとれた児童生徒の育成と、信頼と活力ある開かれた学校づくりを重点として取り組んできた。

来年度は、中教審の課題整理にあるように、学びの「量」から「質」への転換を目指し、各校の校内研究を後押しできるよう各研究部の充実を図りたい。

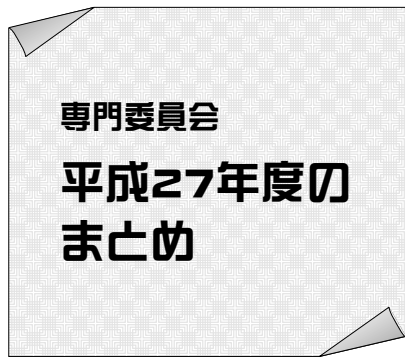
茨大附属 木村美智子

四附属校園がそれぞれ公開研究会を開催して研究成果を発表し、大きな成果を得た。茨城大学教員との共同研究を推進し、さらに、附属学校フォーラムや四附属合同研修会等の開催により、大学や四附属間、公立学校との連携を深め、研究の質の向上を図った。

次年度も、各校園それぞれの研究を一層充実させたい。



附属中 授業風景



教育論文委員会
岩田 博

第五十回教育論文募集に取り組み、次の結果となりました。

一 応募総数 一七五点

個人研究 一六一点

共同研究 一四点

二 審査結果(入賞)

○優秀賞 五点

〔県知事賞〕 斎藤 崇

〔県議会議員賞〕 野田こず恵

〔常陸太田市立久米小学校〕

〔県教育長賞〕 滝 恵

同 (高萩市立東小学校)

同 岡安 利明

同 (古河市立総和中学校)

同 竹内修 外職員二四名

同 (水戸市立三の丸小学校)

○優良賞 二四点

○佳作 一四点

三 表彰式・発表会

二月九日 県教育振興大会

四 教育論文集の刊行
教育論文 第五〇集

学力調査委員会
皆川 澄雄

本年度も、県教育委員会との共催による「学力診断のためのテスト」を実施するにあたり、確かな学力の定着・向上につながるよう、見直し・工夫改善を加えてきました。問題作成委員を県内より選出し、問題作成にあたりました。

一 趣旨

○学力の実態把握・定着・向上

二 対象学年：小三～中三

三 実施教科

○小三～小六：国・理・算・社

○中一～中三：

四 実施日 英・国・数・社・理

○中三……十一月五日(木)

○小三～小六：

一月十三・十四日(水)(木)

○中一・中二……一月十三日(水)

五 テスト結果の集計・分析

○分析システムの配信(県教委)

・一月中旬(中三は十一月)

○集計結果の配信(県教委)

・二月上旬(中三は十二月)

会報・紀要委員会
白石 力

本年度は、三回の会報発行と研究紀要を編集し発刊しました。会

報・紀要委員会専用のメールボックスによる原稿集約によりスムーズにでき効率的により編集作業をすすめることができました。多忙な中、玉稿をお寄せくださいました諸先輩・研究会役員の皆様、各支部長及び各研究部長・専門委員長の皆様をはじめ会員の皆様に心より感謝を申し上げます。

一 会報の発行

(一) 第一六八号(七月十四日)

〔活動方針・事業計画〕

(二) 第一六九号(十月六日)

〔座談会〕「提言」

(三) 第一七〇号(二月二十九日)

〔事業の反省〕

二 研究紀要の発刊

(三月七日予定)

教育論文優秀賞(全文)と優良賞(概要)の掲載

へき地・小規模校運営委員会
岩上 賀子

本委員会は、へき地小規模校のよさを生かした特色ある教育活動の充実・発展に向けた取り組みを以下のとおり行った。

一 郡市委員長研修会の開催

(一) 第一回 五月二十日

(二) 第二回 十二月十五日

二 全国へき地教育研究連盟春季・秋季定期総会への参加

三 小さな学校の教育研修会の開催

(一) つくば市立谷田部南小学校 七月七日

(二) 稲敷市立あずま南小学校 十一月十日

四 関東甲信越研究協議会(新潟)への参加 八月五日

・各県の現状報告と協議

五 全国へき地教育研究熊本大会への参加 十月十五・十六日

・全体会・分散会・公開授業

六 全国へき地教育連盟研究推進協議会への参加

・茨城の現状報告書提出

七 関フ口代表者会議への参加

Webページ運営委員会
陶 慶一

本年度は、外部からのWebページの改ざん等が多発し、その対応策として、更新研修会の際に編集者パスワードを新設し、不正アクセスに対応しました。

教育プラザいばらきWebページ管理委員会と連携し、Webページの管理を業者委託とし、更新のセキュリティの向上に努めて参ります。

一 教育プラザいばらきWebページ管理委員会への参加

○第一回(七月)

・組織の編成、方針の確認等

○臨時(十月、一月)

・Webページの現状と対策

・Webページ管理委託業者の選定、今後の管理等

二 茨城県教育研究会Webページ運営委員会

○第一回(八月 常澄中PC室)

・Webページ更新研修会

・編集者パスワードの新設等

三 管理委員会との連携

組織活性化委員会
木村 明弘

Web機能を活用したモニター制度について

モニター二百名を選出し、「少人数指導教育について」と「県教育研究会の事業について」のアンケートを八月に実施した。約八十五%の回収率となり、それらの集計及び考察を行った。結果については、県教育研究会のHPをご覧いただきたい。

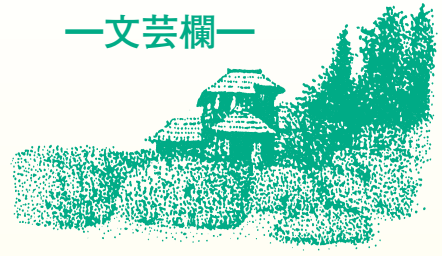
課題連携会議の実施について

三年度になる総括の年度となった。教育プラザいばらきにおいて二回会議を開催し、特に十二月は、十名の委員のほか県教育研究会会長と副会長の出席のもと、少人数指導教育の充実や県教育研究会の事業についての協議及び意見交換等を行った。これらの協議内容は、今後の要望や活動の改善につなげていく。

次年度の活動方針等について

モニター制度や課題連携会議の結果等を踏まえ、本委員会にて次年度の活動方針案を策定した。

好文亭 一文芸欄



〈俳句・短歌・川柳〉

結城市立江川南小学校

鶴見 真理子

山茶花の 一輪咲きて うれしけり

同 新谷 有香

冷えこんだ 朝の教室 暖める

可愛い子らの 元気なあいさつ

同 登坂 悦美

大切に 育てし白菜 抱く子らの

成長のあかし 見つけて嬉し

同 飯泉 満美子

グラウンドに 笑顔あふれる 銀世界

同 生井 孝宏

「あつ、できた！」

やりがいを感じる その瞬間

同 今泉 正人

雪遊び 寒さを知らぬ 子どもたち

同 鈴木 俊雄

北風の 寒さ吹きとぶ 児らの声

土浦市立右粉小学校

加藤 千聖

青い空 芝生に響く 笑い声

同 青山 智晴

芝の露 学校始まる 合図かな

同 戸田 陽子

持久走 笑顔で走れど やせ我慢

同 市村 美賀子

ふと声が 静まりしこの 教室の

窓に届きし 雪の便りよ

東海村立中丸小学校

物井 恵子

寒空に 弧を描く縄 張り詰めて

マリオジャンプが 冴え渡る

東海村立村松小学校

富田 恵子

池垣の 花ゆびさして 問う子らの

頬に映りし 山茶花の紅

東海村立東海中学校

安 暁彦

復興の 希望に輝く 新校舎

東海村立東海南中学校

稲田 真吾

寒空に 家族を思う コタツかな

八千代町立西豊田小学校

栗山 千和

風やんで 満面の笑顔 雪の朝

八千代町立安静小学校

青木 康洋

おきな子の 雪待ち顔に 風の花

八千代町立中結城小学校

鈴木 裕之

縄文の レインフォレスト すがすがし

八千代町立下結城小学校

倉持 清美

霜柱 溶かす日差しに 春を待つ

八千代町立川西小学校

齊藤 洋子

裸木に 負けじと一葉 凜として

八千代町立東中学校

田宮 優一

雪掻きの 右手いそがし 腰ひたい

八千代町立八千代第一中学校

青木 昇

春をまち 笑顔満開 結果まち

稲敷市立江戸崎中学校

鈴木 真帆

帰り道 あまたの星が瞬いて

音なく伝わる 冬の訪れ

稲敷市立江戸崎中学校

中村 麻美

かくるとき 果てなく続く碧の下

yes と言える今まですべてに

稲敷市立新利根中学校

小島 亜希子

陽に染まる 取り残された金魚鉢

外から届く 夢を追う声

稲敷市立東中学校

小松崎 博樹

ふるさとへ 汽笛にきしむ 雪つぶて

〈詩〉

僕らは

鹿嶋市立豊郷小学校

宮崎 明恵

僕らはこの場所に出会い

歩き始めた

思い出すと笑いに包まれる

ここで生まれた大切なもの

みんなで遊びふざけあい

はぐくみ合った友情

競い合いくやしがり

心を許し合った

一緒に過ごしたこの場所で

僕らは歌ってきた

大切な思い出とともに

僕らは歩いてきた

毎朝走った校庭

ここで生まれた僕らの絆

僕らが過ごした毎日を

僕らはずっと忘れない

たとえ遠く離れても

僕らの心はいつも一つ

やがて振り返る時が来るまで

僕らは歩き続ける

いつか会って語ろうよ

僕らが出会ったこの場所を

いつか会って歌おうよ

いつも歌ったあの歌を

いつか僕らは

人を育む

笠間市立友部第二中学校

古平 淳記

今はまだ小さい芽

日々過ぐす学び舎の中で

ゆっくり確かに育っていく

いつの日か花開け

それぞれの大きさで

それぞれの形で

それぞれの色で

それぞれの想いを抱いて

咲く花の姿は見られなくても

その芽を信じて育てよう

その芽を信じて送り出そう

◆編集後記◆

月日が経つのは早いもので、平成二十七年度も残すところ一か月となりました。今回の号は、今年度の最終号となりますので、各郡市支部、各研究部の取組などのまとめとなるように編集しました。

今回の内容は「指導要領の趣旨を踏まえ創意を活かした特色ある教育課程の評価及び改善」というテーマのもと、特集として「第六十七回茨城県教育振興大会並びに研修会」「本年度の事業の反省」「県外教育事情調査報告」を掲載しました。また、「関プロ大会報告」「第五十階教育論文優秀賞受賞のよろこび」も掲載しました。

今号が、これからの各学校における創意を活かした特色ある教育課程のよりよい実践につながれば幸いです。

会報発行にあたり、ご多用の中原稿をお寄せいただきました皆様方に、心よりお礼を申し上げます。

第一七〇号は、正副委員長と次の担当者が編集にあたりました。

◎石川 渡 (水・梅が丘小)

◎大内 邦明 (水・緑岡小)

八木 克弘 (ひ・那珂湊中)

谷島 祥子 (水・渡里小)

新井 草太 (水・緑岡中)

松本 和明 (水・城東小)

大島佳代子 (水・浜田小)